まんのう町内遺跡発掘調査報告書　第6集

中寺廃寺跡

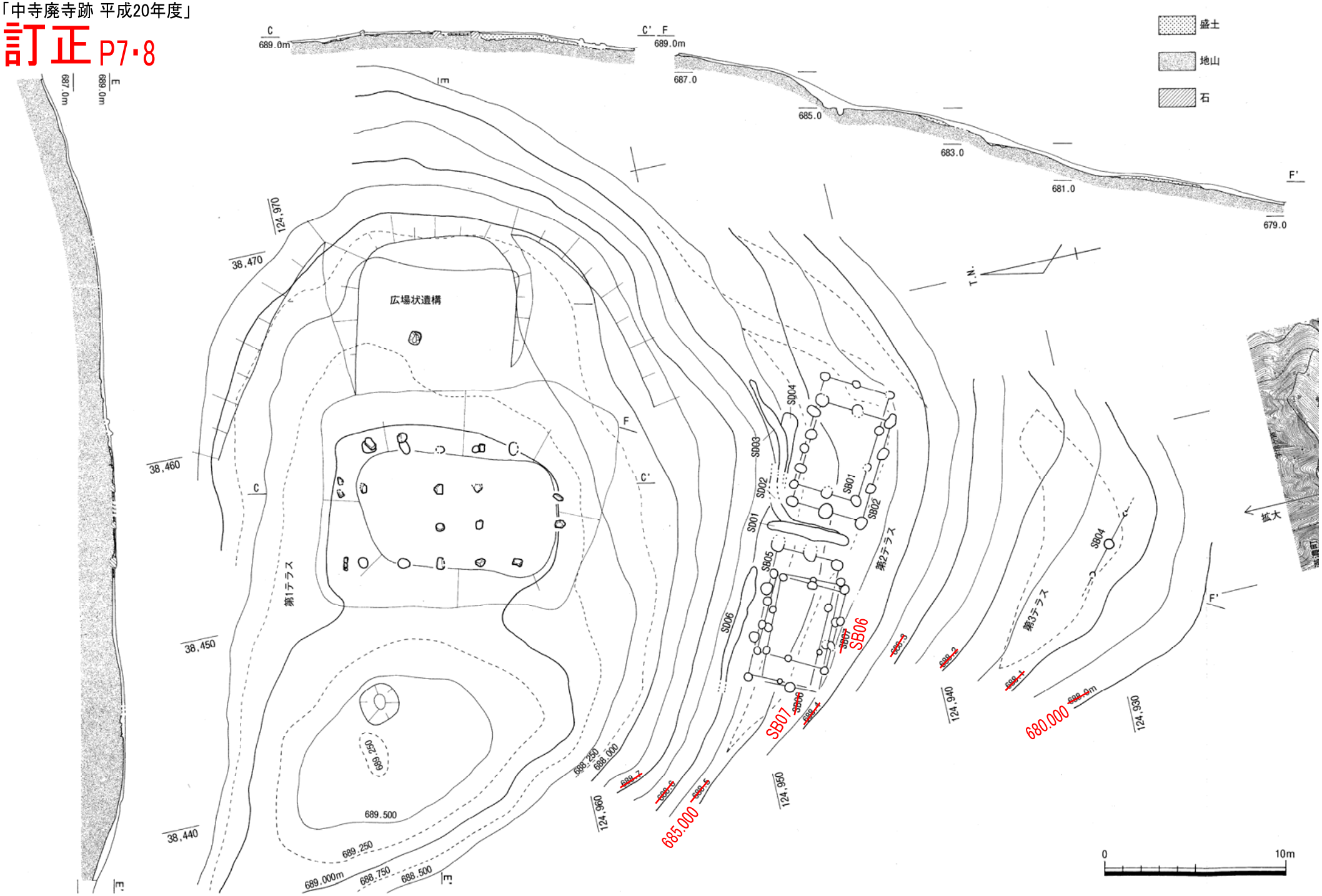
平成20年度

2009年3月

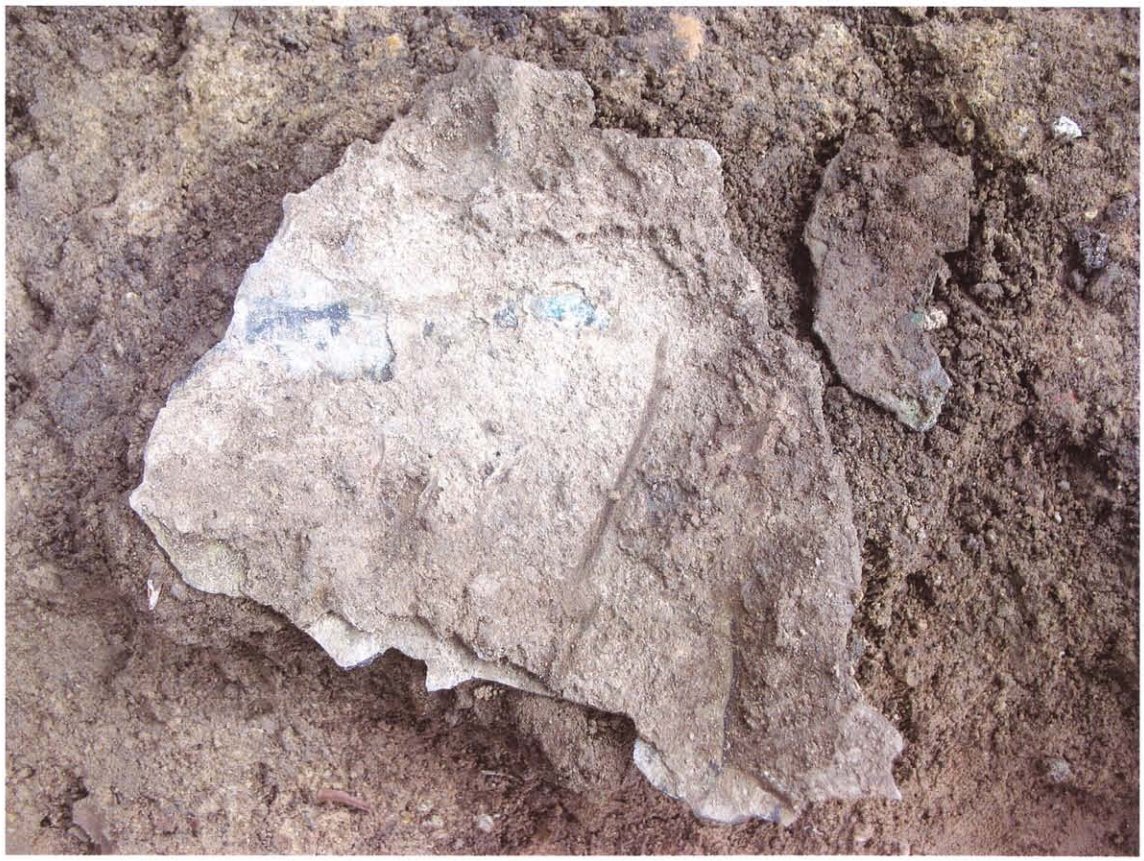
まんのう町教育委員会

「中寺廃寺跡 平成20年度」

訂正 P7・8



A）B地区第２テラス西側（エリアC）全景（北西より）



B）B地区第２テラス西側（エリアC）金属製品出土状況（南より）

序　　文

まんのう町教育委員会では、本町の造田にある大川山（標高1042.9m）の西尾根、標高600～700mの辺りに広がる古代の山林寺院跡である「中寺廃寺跡」の発掘調査を行っております。

昭和59年の発掘調査で塔跡を確認し、塔心礎石下から鎮壇具として納められた10世紀前半の壺などが見つかりました。平成16年から平成19年の発掘調査で、「中寺廃寺跡」はＡ～Ｃ地区の約１ｋｍの範囲にそれぞれ主要な建物や石組が造られていることが分かり、中心地区であるＡ地区では仏堂跡や塔跡が規則的に造られていることが分かりました。

これらの遺構より８世紀後半から12世紀の遺物が出土しました。平安時代に入りますと、比叡山や高野山のように山林寺院が営まれるようになりますが、地方でも「中寺廃寺跡」のように盛んに山林寺院が営まれたことが知られます。

平成20年３月28日に、「中寺廃寺跡」は、古代山林寺院として全国的に貴重な遺跡であるとして、国指定史跡となりました。

平成20年度は、Ｂ地区（僧坊跡）の発掘調査を行い、中国浙江省越州窯産青磁片（９世紀末）、兵庫県西播磨産須恵器片、金属製鋺片（青銅の仏具）等が見つかりました。

平成21年度は、Ｂ地区の第３テラスの発掘調査を継続するとともに、史跡中寺廃寺跡整備検討委員会の丹羽佑一委員長様をはじめ委員の皆様方のご指導を得ながら、自然と調和した史跡整備も進めてまいりたいと考えております。

さて、このたび、多くの方々のご高配とご尽力により、「中寺廃寺跡」の調査報告書第６集を発行する運びとなりました。本報告書が、古代山林仏教の研究の資料として広く活用されますとともに、文化財に対する理解と関心が一層深められることになれば幸いです。

最後になりましたが、本発掘調査に格別のご指導とご協力をいただいております関係の皆様方に心から深く感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げ、序文に代えさせていただきます。

平成21年３月

まんのう町教育委員会

教育長　北　山　正　道

例　　言

1．本報告書は、まんのう町教育委員会が、文化庁と香川県の文化財補助金を受けて平成20年度国庫補助事業として実施した、香川県仲多度郡まんのう町造田3469-2他に所在する中寺廃寺跡の報告を収録した。

2．発掘調査及び報告書の作成はまんのう町教育委員会が実施した。

3．発掘調査及び報告書の作成にあたって、以下の方々のご教示、また関係機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（敬称略、五十音順）
上原真人、魚島純一、片桐孝浩、鈴木信男、高木敬子、中山尚子、丹羽佑一、平澤 毅、藤好史郎、森 格也、山岸常人
香川県教育委員会生涯学習・文化財課、香川県埋蔵文化財センター、香川県立ミュージアム、徳島県立博物館、まんのう町文化財保護協会

4．本報告書で用いる方位の北は、旧国土座標第Ⅳ系の北であり、標高は東京湾平均海水位（T.P.）を基準としている。
また、遺構は下記の略号により表示している。
SB…掘立柱建物跡　SD…溝跡　SP…柱穴跡

5．挿図の一部に国土地理院国土基本図（1/5,000）を複製した琴南町全図（承認番号四複第238号）及び、国土地理院地形図「内田」（1/25,000）を使用した。

6．遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖　1994年度版』による。

目　　次

題　　字　金澤　正親氏

表紙写真　中寺廃寺跡遠景（南東より）

1．立地と環境…… 1

2．調査の経緯と経過…… 4

(1) 調査に至る経緯…… 4

(2) 調査の経過…… 4

(3) 周知と活用…… 5

3．調査の成果…… 6

(1) 遺構…… 6

①B地区第１テラス …… 6

②B地区第２テラス …… 13

(2) 遺物…… 18

①B地区第１テラス出土遺物 …… 18

②B地区第１・第２テラス間西側斜面（エリアC北）出土遺物 …… 18

③B地区第２テラス西側（エリアC）出土遺物 …… 19

④B地区第１・第２テラス間東側斜面（エリアD）出土遺物 …… 20

⑤B地区第２テラス東側（エリアB・D）出土遺物 …… 22

⑥B地区第２テラス西側（エリアC）出土の金属製品について …… 22

4．まとめ…… 24

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図…… 2

第２図　平坦地分布図…… 3

第３図　B地区第１～第３テラス平断面図 …… 7

第４図　B地区第１テラス平・断面図 …… 9

第５図　B地区第２テラス平・断面図 …… 11

第６図　B地区第２テラスSB01・02平・断面図…… 14

第７図　B地区第２テラスSB05平・断面図…… 15

第８図　B地区第２テラスSB06・07平・断面図…… 17

第９図　B地区第１テラス、第１・第２テラス間西側斜面（エリアC北）出土遺物実測図 … 19

第10図　B地区第２テラス西側（エリアC）出土遺物実測図 …… 21

第11図　B地区第１・第２テラス間東側斜面(エリアB)、第２テラス東側(エリアB・D)出土遺物実測図… 23

表 目 次

第１表　土器観察表…… 25
第２表　石製品観察表…… 28
第３表　金属製品観察表…… 28

写 真 図 版 目 次

図版１　A）B地区第２テラス西側（エリアC）全景（北西より）
B）B地区第２テラス西側（エリアC）金属製品出土状況（南より）
図版２　A）中寺廃寺跡全景（南東より）
B）B地区第１テラスより大川山を望む（北西より）
図版３　B地区第１テラス礎石建物跡南西半検出状況（南より）
図版４　A）B地区第１テラス礎石建物跡南西半石群検出状況（南より）
B）B地区第１テラスSD05全景（北より）
C）B地区第１テラスSD05全景（南より）
図版５　A）B地区第１テラス礎石建物跡から西部分検出状況（東より）
B）B地区第１テラス礎石建物跡から西部分検出状況（南より）
C）B地区第１テラス礎石建物跡から西の岩盤削平部分検出状況（南西より）
図版６　A）B地区第１テラス広場状遺構北半検出状況（東より）
B）B地区第１テラス広場状遺構北半検出状況（西より）
C）B地区第１テラス広場状遺構柱穴南拡張部分検出状況（東より）
D）B地区第１テラス広場状遺構柱穴土層断面（北より）
E）B地区第１テラス広場状遺構柱穴土層断面（西より）
図版７　A）B地区第２テラス東側（エリアB・D）全景（北から）
B）B地区第２テラス東側（エリアB）北壁a-a' 土層断面（南東から）
図版８　A）B地区第２テラス西側（エリアC）全景（北西から）
B）B地区第２テラス西側（エリアC）全景（南東から）
図版９　A）B地区第２テラスSD06全景（西から）
B）B地区第２テラスSD06全景（東から）
C）B地区第２テラスエリアC西壁土層断面（北東から）
図版10　A）B地区第２テラスSB05-SP05土層断面（東から）
B）B地区第２テラスSB06-SP06土層断面（東から）
C）B地区第２テラスSB07-SP06土層断面（東から）
D）B地区第１・第２テラス間斜面西側（エリアC北）検出状況（南から）
E）B地区第２テラス西側（エリアC）報文番号48出土状況（南から）
図版11　A）B地区第１テラス、第１・第２テラス間西側斜面（エリアC北）出土遺物（外面）
B）B地区第１テラス、第１・第２テラス間西側斜面（エリアC北）出土遺物（内面）
図版12　A）B地区第２テラス西側（エリアC）出土遺物（外面）
B）B地区第２テラス西側（エリアC）出土遺物（内面）
図版13　A）B地区第１・第２テラス間東側斜面（エリアD）、第２テラス東側（エリアB・D）出土遺物（外面）
B）B地区第１・第２テラス間東側斜面（エリアD）、第２テラス東側（エリアB・D）出土遺物（内面）
図版14　A）B地区第2テラス西側（エリアC）金属製品出土状況（北より）
B）金属製品X線写真
図版15　A）金属製品蛍光X線試料測定点（内面）
B）金属製品蛍光X線試料測定点（外面）

1．立地と環境

まんのう町は香川県仲多度郡南部の３町（琴南町、満濃町、仲南町）が、平成18年３月20日に合併して誕生した町である。香川県中部（中讃地方）に位置し、東は綾川町･高松市、西は三豊市、北は丸亀市・善通寺市・琴平町に接している。町の面積は194.33㎢である。町の南部及び南西部には、標高1,000mを超える竜王山（1059.9m）、大川山（1042.9m）を主峰とする讃岐山脈が連なり、その麓を県下で唯一の一級河川土器川が北流する。

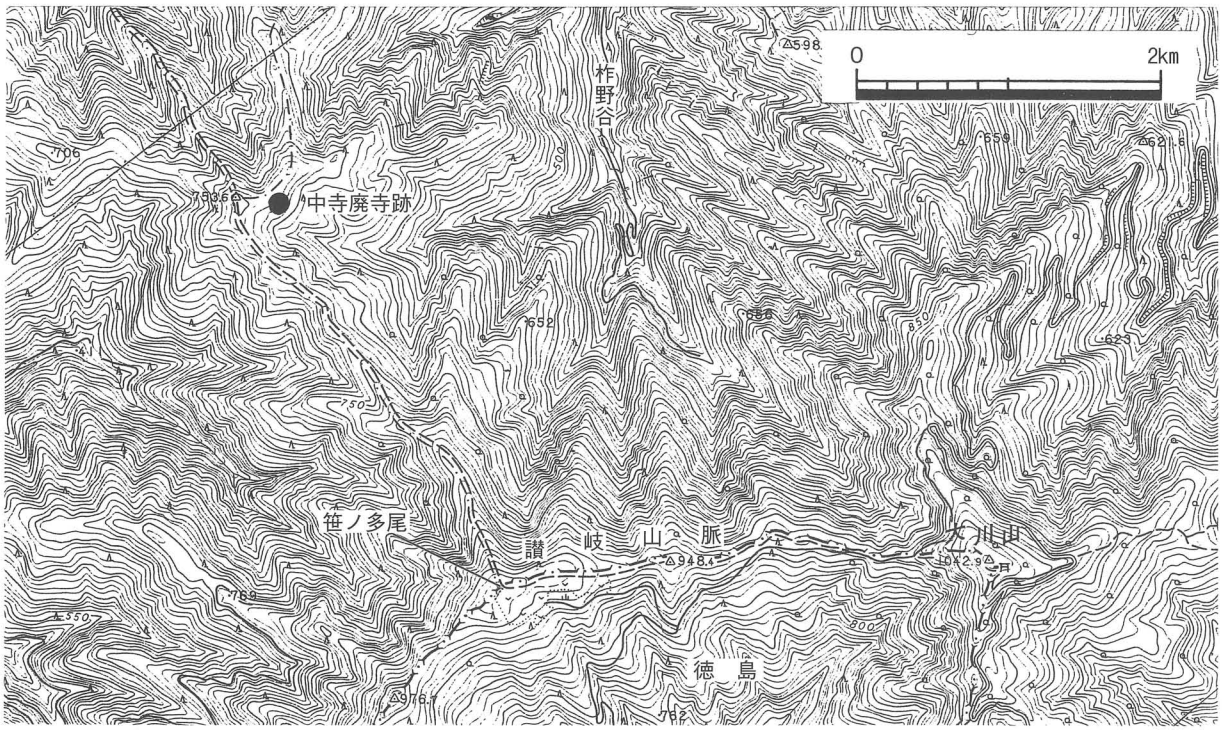
中寺廃寺跡は、香川県（讃岐国）と徳島県（阿波国）を分かつ讃岐山脈第２の主峰、大川山の西北西約2.5km、標高約700mの山間部に立地する。大川山山頂やその登山道からは、日本最大の灌漑用溜池である満濃池をはじめとする溜池群が潤す讃岐平野西半部を眼下に一望でき、土器川・明神川を溯り、讃岐山脈の分水嶺となる三頭峠まで登り詰めると、切り立つように急峻な眼下に、東に向けて滔々と流れる吉野川を臨み、対岸には剣山を擁する四国山地の山並が続く。中寺廃寺跡は、まさに讃岐・阿波国境近くの讃岐国側に立地している。

中寺廃寺跡は、まんのう町の中でも、旧琴南町と旧満濃町・旧仲南町が接する山の稜線の、旧琴南町側に分布する３つの平場群の総称である。すなわち、南東南に開いた谷を囲む西のA地区、東のB地区、南のC地区の３つの平場群である。周囲の視界は尾根により隔たれているため望見することはできないが、南東方向への視界は開けており、古くから信仰されてきた大川山を望むことができる。

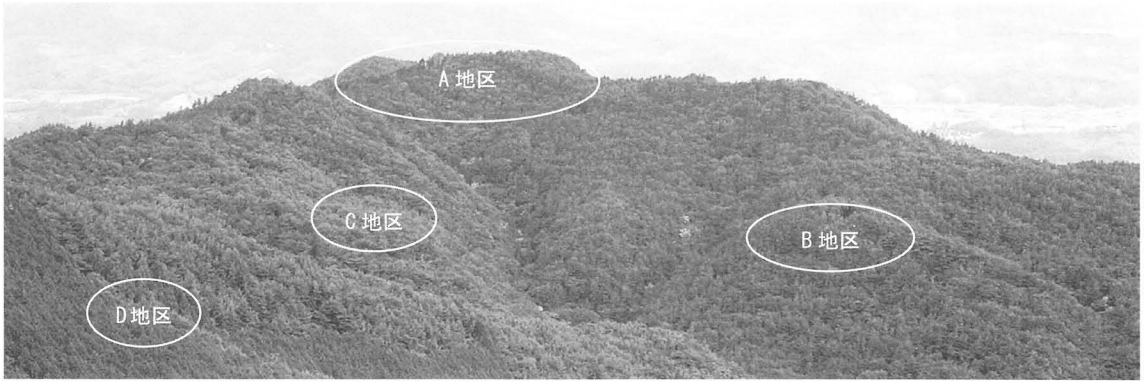
現在、徳島県美馬市から三頭トンネルを経由してまんのう町に入ることができる。こうした国境越えは、交通が至便となった近年の現象ではない。かつての三頭峠は、阿波方面からの金比羅参りの人々や、畑作地域の徳島県三好・美馬地域で飼育した役牛を、香川の水田地帯に貸し出す「借耕牛（かりこうし）」が往還する峠道であった。つまり、地理的には香川県の中央最奥に位置するまんのう町は、古くから阿波と讃岐を結ぶ交通の要衝であった。

中寺廃寺の存在もこうした環境を抜きにして語ることはできない。

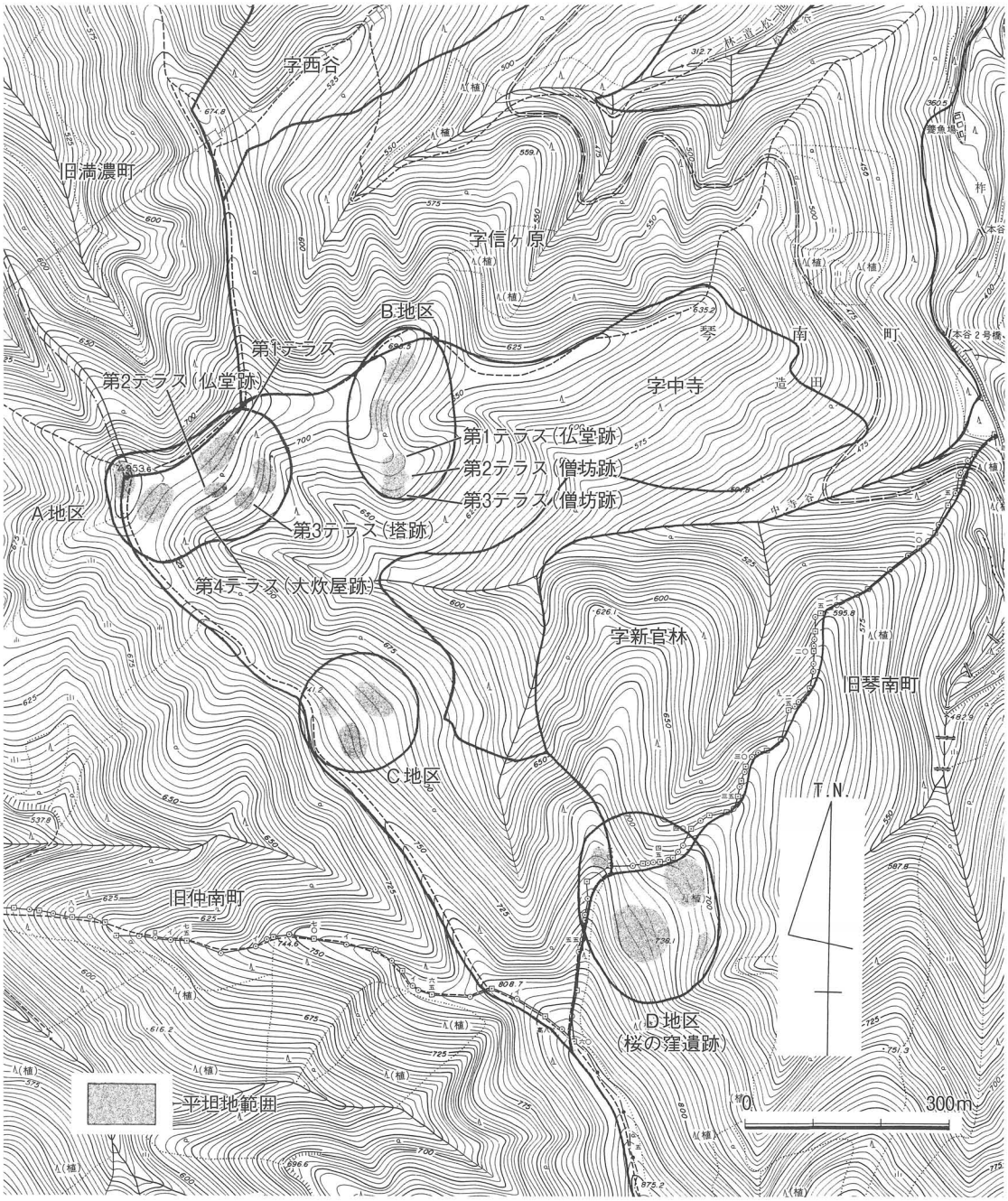
なお、平成20年３月に国指定史跡となった。



第１図　遺跡位置図



平坦地分布状況（南東より）



第２図　平坦地分布図

2．調査の経緯と経過

(1) 調査に至る経緯

近年、調査地付近に「中寺」「信ケ原（のぶはら）」「鐘が窪（かねくぼ）」「松地谷（まつぢだに）」といった寺院に関する地名が存在すること、寛政11（1799）年に記された『讃岐廻遊記』中に「中寺」の表記があること、近隣集落には大川七坊と呼ばれる寺院が山中に存在したという伝承が残っていることから寺院の存在が示唆されてきた。しかし、寺院の詳細が記された文献は未確認であり、中寺は長らく幻の寺院であった。

昭和56年に中寺廃寺跡付近の分布調査を実施し、現在のA地区（第２図）付近において数箇所の平坦地を発見した。

昭和59年にはボーリング棒による調査を実施し、A地区第２テラスで礎石を確認した。またA地区第３テラスにおいては試掘調査により塔跡を確認した。塔心礎石の下部からは地鎮・鎮壇具と想定される10世紀前半の遺物が出土し、10世紀前半に塔が建立されたことを確認した。

平成15年度は字中寺（第２図）全域の詳細分布調査を行い、約1,000mの範囲に遺跡が展開していることが判明し、大きく４つの地区に分け、それぞれをA～D地区とした。

平成16年度から中寺廃寺跡調査・整備委員会を組織し、長期計画に基づき本格的な調査を実施している。平成16年度はA地区第２・第３テラスにおいて発掘調査を実施した。その結果、仏堂跡・塔跡を確認した。この仏堂と塔は計画的に配置された中枢伽藍であり、A地区は中寺の中心的な地区であったと考えている。また、文献調査から19世紀前半には寺がすでに名称不明の状態であり、現在のD地区の位置に寺跡があると伝承されていたことが判明した。

平成17年度はB地区（第２図）において発掘調査を実施した。その結果、仏堂跡・僧坊跡を確認した。僧坊跡より西播磨産須恵器多口瓶片、僧坊跡に伴う排水溝より越州窯系青磁碗片が出土したことから、中寺はこれらの貴重品を取り寄せることのできる有力な寺院であったと考えている。

平成18年度はC地区（第２図）において発掘調査を実施した。その結果、石組遺構を確認した。石組遺構は平安時代の石塔であると思われ、平安時代に記された仏教行事に関する史料『三宝絵詞』に、平安時代中頃には石を積んで石塔とする行為が一般の民衆に広がっていたことが記されていることから、祭祀的な意味合いの強い地区であると考えている。

平成19年度はA地区第４テラスにおいて発掘調査を実施した。その結果、掘立柱建物跡１棟を確認した。この掘立柱建物跡は竈の痕跡があること、また建物内から食器や調理具が出土したことなどから大炊屋跡と考えている。平成20年３月、国指定史跡となった。

(2) 調査の経過

本年度の現地作業は４月９日から12月10日までB地区第１テラス礎石建物跡の南西半から西にかけての範囲（前年度からの継続）、広場状遺構と広場状遺構から東にかけての斜面の北半、第

２テラス西半の発掘調査を実施した。

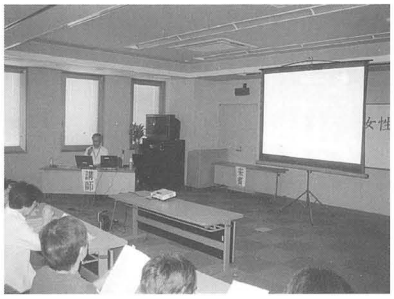
整理作業は発掘調査と並行して行い、発掘調査終了後には報告書編集作業を行った。

⑶ 周知と活用

中寺廃寺跡の周知と活用を図るため、現地見学、講演会、資料展示を実施した。また琴南ふるさと資料館にて常設展示を行っている。

４ 月 23 日　一般希望者現地見学　８名
５ 月 13 日　一般希望者現地見学　４名
５ 月 18 日　まんのう町文化財保護協会総会にて京都大学大学院教授上原真人氏講演「中寺廃寺について」 150名
５ 月 25 日　仲善シルバー人材センター現地見学　27名
７ 月 ６ 日　まんのう町女性大学にて講演　200名
７ 月 27 日　一般希望者現地見学　15名
８ 月 ２ 日　しみじみふるさと体験会現地見学　９名
８ 月 ４ 日　香川県高等学校地歴公民科研究会歴史部会現地・琴南ふるさと資料館見学　４名
11 月１・２日　琴南地区文化祭にて琴南ふるさと資料館開放
11 月22・23日　まんのう町文化祭にて展示
12 月３～12日　まんのう町役場ロビーにて速報展
１２ 月 ５ 日　香川県自治振興課琴南ふるさと資料館見学　20名

５月18日


７月６日

11月22・23日

3. 調査の成果

(1) 遺構

本年度の発掘調査はB地区第１・第２テラス（第３図）において実施した。

B地区は中寺廃寺跡の北東部に位置し、第１・第２テラスは南西方向へ突出した小支尾根の先端付近に展開する。テラスの周囲は概ね急斜面であるが、第１テラスの北東部と北西部は緩やかな尾根が続いている。第１・第２テラス間の比高差は約３ｍである。

第１テラスは礎石建物跡を検出した西半と広場状遺構の平坦な東半からなり、西半の調査では礎石据付掘方跡、溝跡（SD05）を検出した。また、広場状遺構部分と広場状遺構から東側斜面を掘削した結果、柱穴跡を検出した。

第２テラスでは平成17年度調査したエリアAの西側とエリアBの北側を掘削し、掘立柱建物跡、溝跡、柱穴跡を検出した。

①B地区第1テラス

第１テラス（第３図）は東方向へ突出した尾根上に位置する標高約689m、面積約300㎡の平坦地である。本年度は平成17年度に未調査であった礎石建物跡に伴う土壇の南西半、土壇全体の４分の１と礎石建物跡から西へ17m、E-E”から南へ２ｍの範囲を平成17年度と同じく地山、盛土直上面まで掘削し、礎石据付掘方１基、礎石建物に伴う溝１条を検出した。

また、広場状遺構と東側斜面のE-E”から北へ２ｍ、東へ19mの範囲とE-E”から南へ２ｍ、平成17年度掘削箇所からB-B’までの範囲を地山、盛土直上面まで掘削し、柱穴１基を検出した。

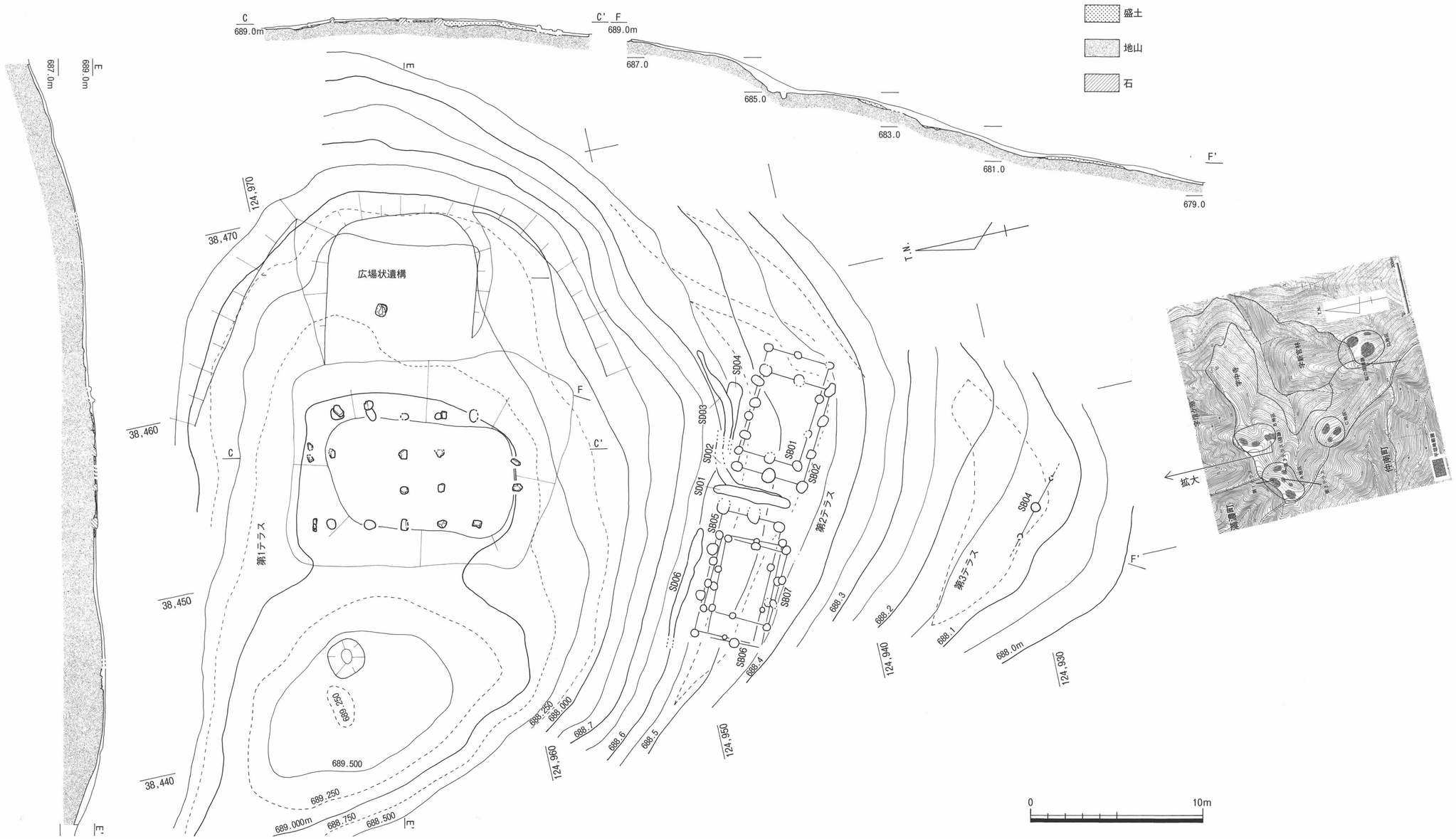
礎石建物跡

今年度の発掘調査では、平成17年度の調査部分に継続する礎石建物跡を伴う土壇と礎石据付掘方１基を検出した（第４図）。土壇の南辺では礎石建物跡の東西軸と平行で、直列状に置かれた２石から成る石列を検出した。また石列から南に向かい急な落ち込みが南北トレンチから西へ2.8m×南北2.0mの範囲に広がり、その中に崩落したような状態の礎石大の石を含む石群を検出した。

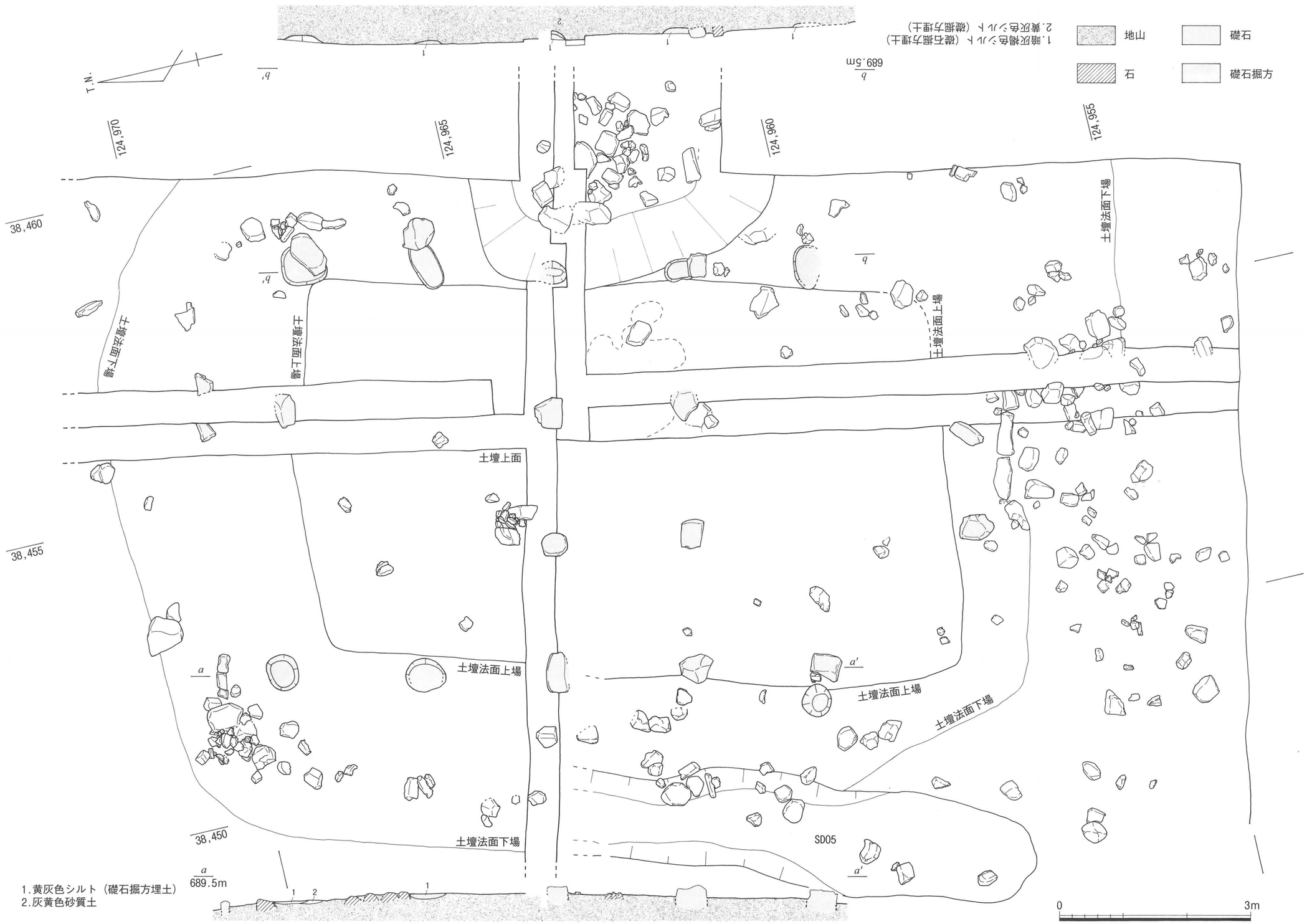
SD05

礎石建物跡の西では西辺と平行する溝を検出した。溝は幅約1.6m、深さ約0.05m、検出長約７ｍを測る。南へ行くにつれ浅くなり南端では高低差がなくなる。

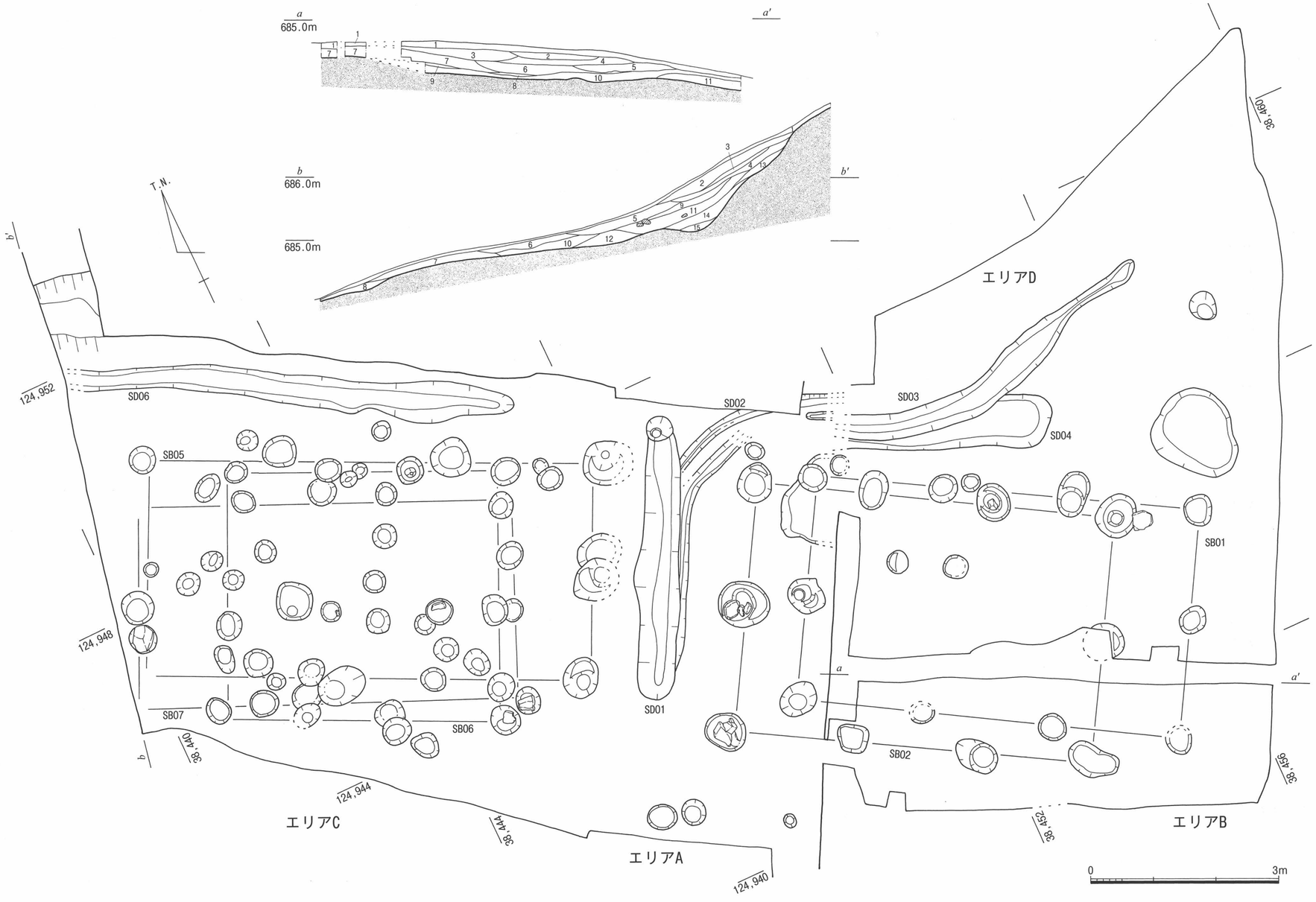
溝の南辺から西では腐植土直下に地山である岩盤が広がるが、溝から西へ約２ｍの幅で、突出した岩盤を削り、整地したような痕跡が認められた。



第３図　B地区第１～第３テラス平・断面図



第４図　Ｂ地区第１テラス平・断面図



a－*a′*

1.腐葉土
2.濁淡灰褐色砂質土（粒径1.0～2.0cmの焼土・粒径0.2～0.5cmの炭含む）
3.濁淡赤褐色シルト（粒径1.5～2.5cmの焼土・粒径0.1～0.3cmの炭・長径0.5～2.5cmの土器片多く含む）
4.淡灰黄色シルト（粒径0.5～2.5cmの炭少し含む、粒径0.5～2.0cmの白色礫多く含む）
5.明赤橙色シルト（黒色シルト多く含む、被熱し硬くしまる）
6.灰黄色シルト（粒径0.2～0.5cmの炭含む、5層下面が被熱し赤色化）
7.淡黄色シルト（粒径1.5～2.0cmの白色礫多く含む）
8.明淡黄色粘土（層上下にFeが沈澱し橙色化）
9.明淡黄色粘質土
10.濁灰色砂質シルト（粒径0.2～0.5cmの炭多く含む）
11.淡灰黄色シルト

b－*b′*

1.腐葉土
2.にぶい黄褐色砂質土（小石・炭含む）
3.黄灰色砂質土（小石・炭含む）
4.明黄褐色砂質土（小石・炭含む）
5.灰黄褐色砂質土（石極多く含む）
6.褐色砂質土（しまり悪い）
7.にぶい黄褐色砂質土（焼土・炭含む、しまり悪い）
8.明黄褐色砂質土（石多く含む、しまり悪い）
9.明黄褐色砂質土（焼土少し含む、炭含む）
10.明赤褐色砂質土（焼土・炭多く含む）
11.黄色砂質土（石多く含む、炭含む）
12.にぶい黄褐色砂質土（焼土・炭含む、灰白色石少し含む）
13.明黄褐色砂質土（炭含む、灰白色石多く含む、粘性あり）
14.明黄褐色砂質土（炭含む、灰白色石多く含む、粘性あり、13層より黄色が強い）
15.明黄褐色砂質土（石・炭含む）

第５図　B地区第２テラス平・断面図

広場状遺構

広場状遺構（第３図）では東側中央部のやや窪んだ位置で柱穴１基を検出した。柱穴は西半が歪な円形、東半が隅丸方形を呈し、１辺の長さ1.4m、深さ0.4mで柱痕が認められる。時期は、柱穴跡から遺物が出土していないため不明である。掘立柱建物の可能性を考え、礎石建物跡中央から向かって南の対称となる位置を掘削したが遺構は確認できなかった。

②B地区第2テラス

第２テラス（第５図）は第１テラスから南に下った場所に位置し標高約686m、面積約60㎡の平坦地である。山側の第１テラスと谷側の第３テラスの中間に位置する。本年度は平成17年度調査したエリアAの西側（エリアC）とエリアBの北側（エリアD）を地山、盛土直上面まで掘削し、平成17年度に一部検出していたSB01、SB02を含む掘立柱建物跡５棟、SD01・02を含む溝５条、掘立柱建物を構成する柱穴を含めて柱穴63基を検出した。エリアCでの柱穴検出密度は高い。エリアCの平坦部分西半とエリアDの平坦部分の地山、盛土直上面は、エリアA･Bと同じく焼土･炭化物を多く含む焼土層（琴南町内遺跡発掘調査報告書 第２集 中寺廃寺跡 平成17年度 第８図 k-k' 断面図12・13層）が被覆していた。

SB01

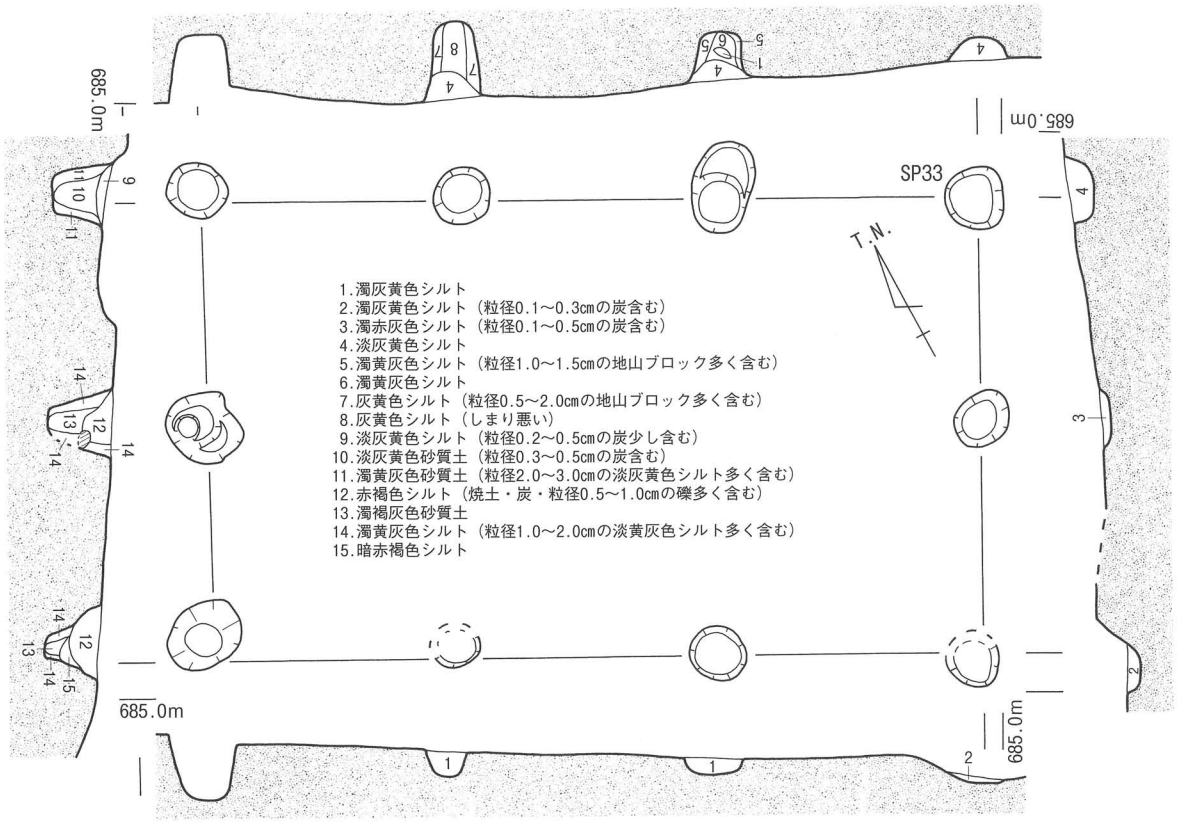
SB01（第６図）は標高約684.47mで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間２間×桁行３間で、3.62×6.20m、床面積約22.44㎡を測る。構成する柱穴は歪なものもあるが概ね円形を呈し、直径32～60cm、検出面から深さ６～66cmで梁間西列と桁行北列はしっかりとした掘方を持つ。５基の柱穴に柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径10～20cmを測る。建物は東西棟で北東―南西方向（短軸）は真北から28.5°東を取る。西半の掘立柱建物とは方位が異なり、地形に制約された向きに建てられたと考えられる。

掘立柱建物跡を構成する柱穴から須恵器・土師器・土師質土器が出土している。その中でSP33から出土した須恵器坏・土師器坏からSB01の時期は10世紀前半と考えられる。

SB02

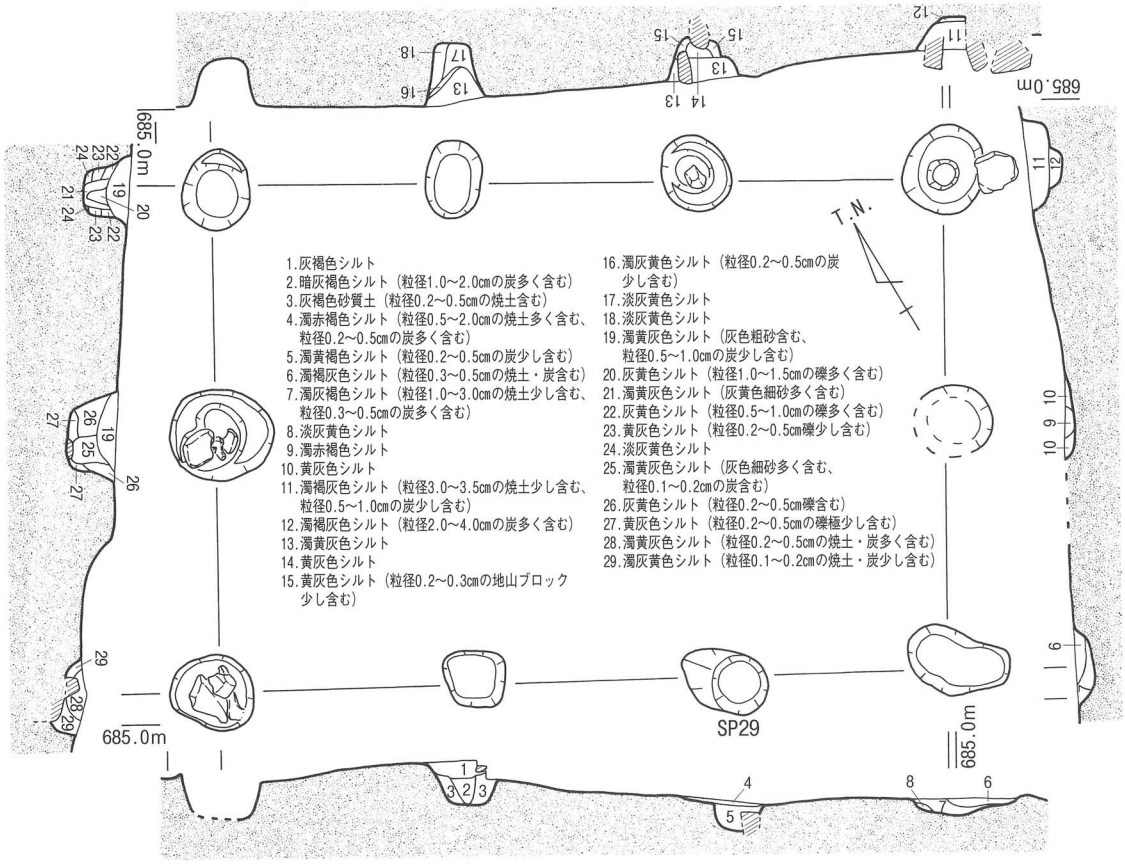
SB02（第６図）は標高約684.60mで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間２間×桁行3間で、3.90×5.81m、床面積約22.66㎡を測る。構成する柱穴は歪なものもあるが概ね円形を呈し、直径46～82cm、検出面から深さ７～50cmで梁間西列と桁行北列はしっかりとした掘方を持つ。３基の柱穴に柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径13～22cmを測る。３基の柱穴が長軸９～22cmの石を配した根石を持つ。建物は東西棟で北東―南西方向（短軸）は真北から30.5°東を取る。西半の掘立柱建物とは方位が若干異なり、地形に制約された向きに建てられたと考えられる。

掘立柱建物跡を構成する柱穴から須恵器・土師器・土師質土器が出土している。その中で



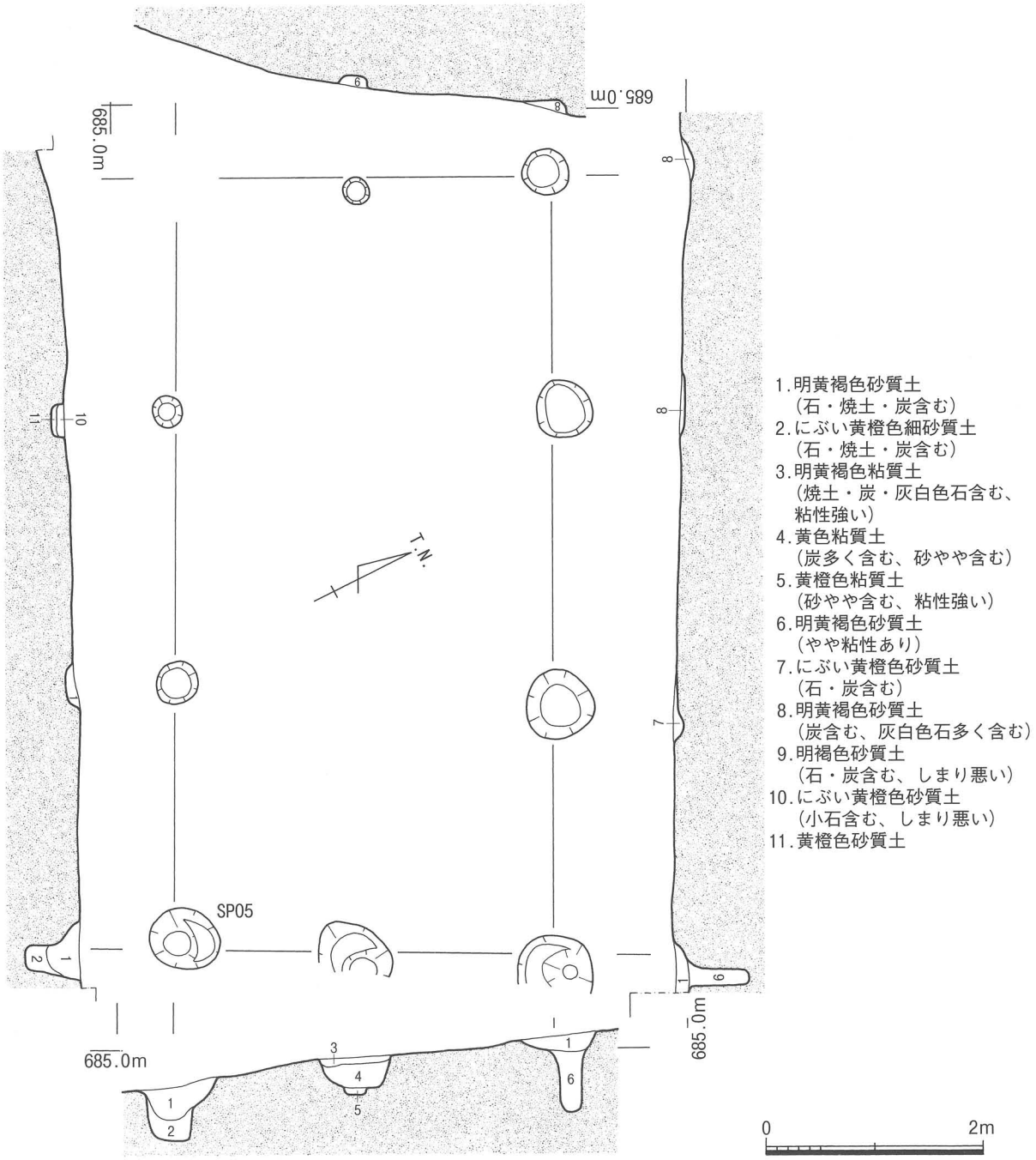
SB01

0 2m



SB02

第６図　B地区第２テラス SB01・02平・断面図



第７図　Ｂ地区第２テラス SB05平・断面図

SP29から出土した黒色土器椀・土師器椀からSB02の時期は９世紀末～10世紀初頭と考えられる。

SB05

SB05（第７図）は標高約684.86mで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間２間×桁行３間で、3.53×7.16m、床面積約25.27㎡を測る。南西隅１基を欠く。構成する柱穴は歪なものもあるが概ね円形を呈し、直径24～71cm、検出面から深さ３～73cmで梁間東列のみしっかりとした掘方を持つ。北東隅の柱穴には柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径20cmを測る。建物は

東西棟で北東―南西方向（短軸）は真北から26.5°東を取る。

SB05はSB06、SB07とほぼ同位置で検出したが柱穴の重複がみられず、先後関係については不明である。盛土を掘り込んでいることから平坦地の造成後に建てられたと考えられる。SB01、SB02とは方位が異なり、地形に制約された向きに建てられたと考えられる。

掘立柱建物跡を構成する柱穴から須恵器・土師器が出土している。その中でSP05から出土した須恵器坏・土師器坏からSB05の時期は10世紀前半と考えられる。

SB06

SB06（第８図）は標高約684.74mで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間２間×桁行３間で、3.99×4.37m、床面積約17.44㎡を測る。構成する柱穴は歪なものもあるが概ね円形を呈し、直径33～50cm、検出面から深さ２～19cmである。南東隅の柱穴は長径20cmの根石を持つ。建物は東西棟で北東―南西方向（短軸）は真北から26.5°東を取る。

SB06はSB05、SB07とほぼ同位置で検出したが、SB07を構成する柱穴を切っている。SB05とは柱穴の重複がみられず、先後関係については不明である。盛土を掘り込んでいることから平坦地の造成後に建てられたと考えられる。SB01、SB02とは方位が異なり、地形に制約された向きに建てられたと考えられる。

掘立柱建物跡を構成する柱穴から土師器・土師質土器が出土している。その中でSP06から出土した土師器椀からSB06の時期は９世紀末～10世紀初頭と考えられる。

SB07

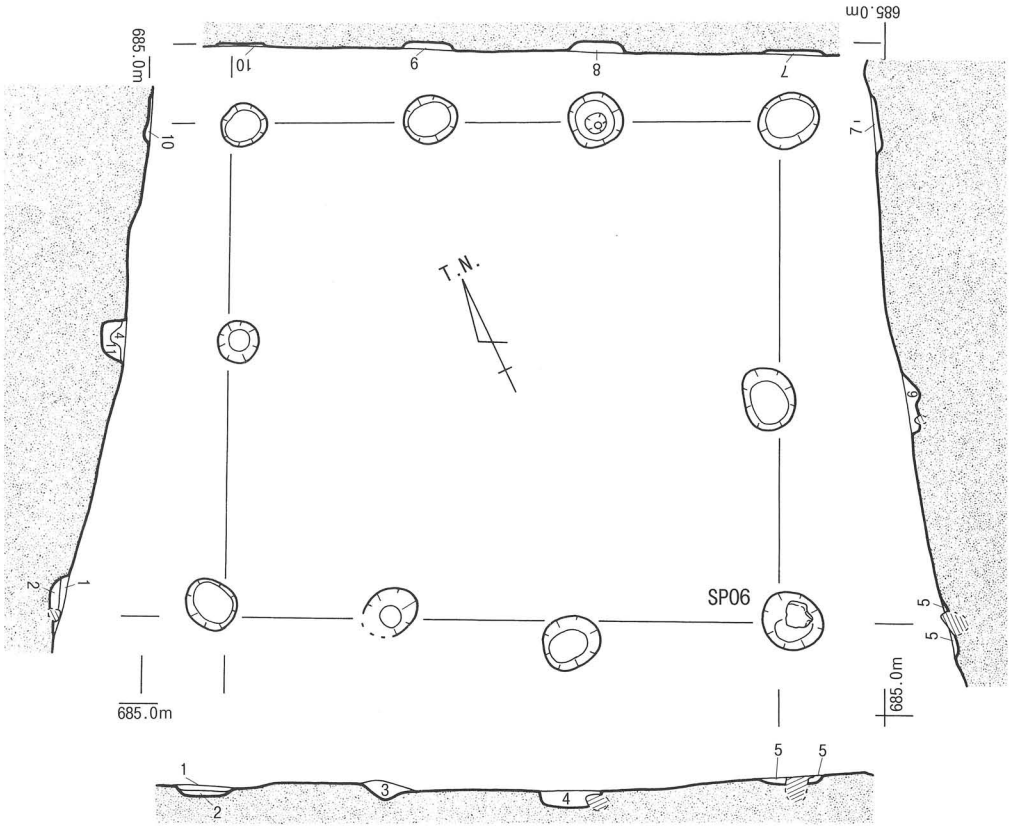
SB07（第８図）は標高約684.84mで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間２間×桁行４間で、3.30×6.06m、床面積約20.00㎡を測る。梁間西列２基を欠く。構成する柱穴は歪なものもあるが概ね円形を呈し、直径34～63cm、検出面から深さ４～20cmである。南東隅の柱穴は長径30cmの根石を持つ。建物は東西棟で北東―南西方向（短軸）は真北から24.5°東を取る。

SB07はSB05、SB06とほぼ同位置で検出したが、SB06に切られている。SB05は柱穴の重複がみられず、先後関係については不明である。盛土を掘り込んでいることから平坦地の造成後に建てられたと考えられる。SB01、SB02とは方位が異なり、地形に制約された向きに建てられたと考えられる。

掘立柱建物跡を構成する柱穴から須恵器・土師器が出土している。その中でSP09から出土した土師器皿からSB07の時期は９世紀末と考えられる。

SD06

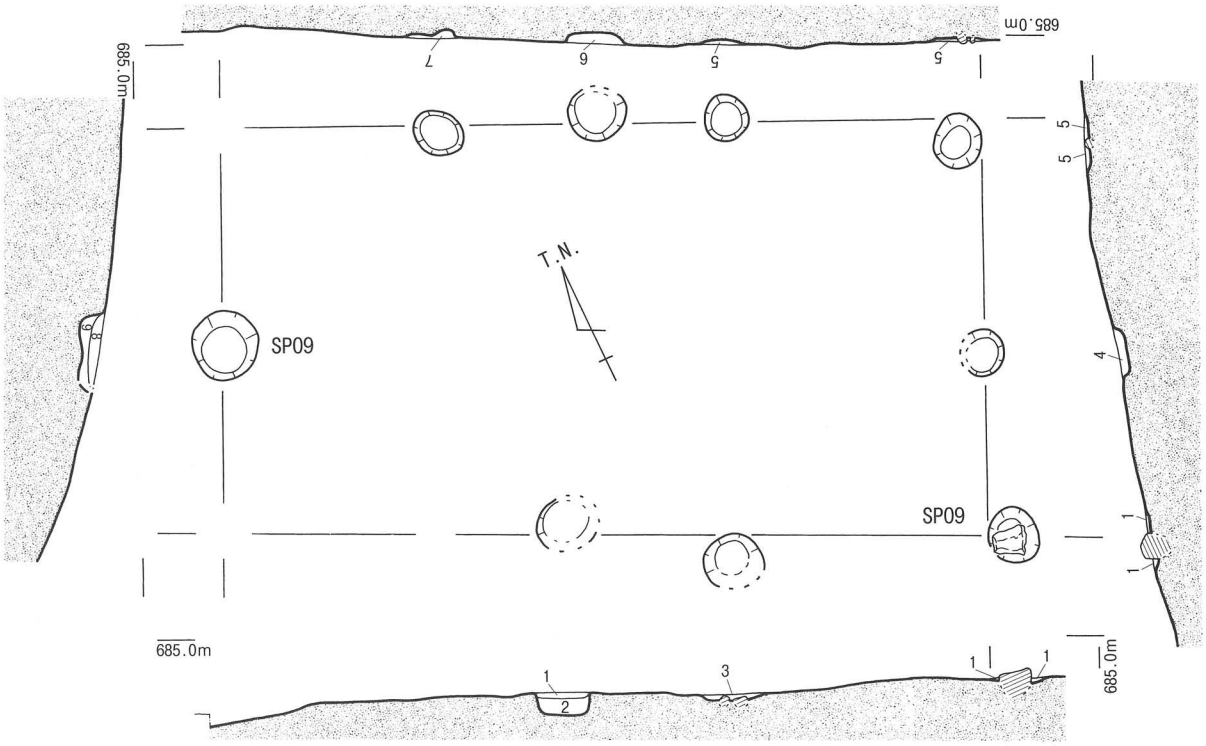
SD06は（第５図）は標高約685.28mで、第２テラス北側で検出した溝である。溝は幅約48cm、深さ約13cm、検出長約7.20mを測る。SB05～07に伴う溝と考えられ、第１テラスからの雨水の排水溝と考えられる。第２テラス東側（エリアD、平成18年度調査）でも掘立柱建物に伴う排水



1.明黄褐色砂質土（石多く含む）
2.黄褐色粘質土
3.にぶい黄橙色砂質土（炭含む）
4.明黄褐色砂質土（小石・炭含む）
5.明黄褐色砂質土（小石・炭含む、4よりやや黄色が強い）
6.灰黄褐色砂質土（石・炭含む）
7.褐灰色砂質土（炭・灰白色石含む）
8.にぶい黄橙色（石多く含む、炭含む）
9.褐灰色砂質土（炭含む、やや粘性あり）
10.にぶい黄橙色砂質土（灰白色石含む）
11.黄橙色砂質土（小石・炭含む）

SB06

0　2m



1.黄褐色砂質土（石・焼けた石含む）
2.明黄褐色砂質土（石・炭含む）
3.黄褐色砂質土（石・焼けた石含む）
4.明黄褐色砂質土（石含む）
5.明黄褐色粘質土（粒径2cm以下の石含む）
6.浅黄色粘質土（炭含む）
7.明黄褐色砂質土（炭・灰白色石含む）
8.明黄褐色砂質土（小石・炭含む、しまり悪い）
9.明黄褐色砂質土（粒径3cm以下の石多く含む、しまり悪い）

SB07

第８図　B地区第２テラス SB06・07平・断面図

溝を検出しており、第２テラス西側（エリアC）でも同様に造られていることが分かる。

溝内から須恵器・土師器が出土しており、時期は須恵器坏・土師器坏から10世紀前半と考えられる。

⑵ 遺物

①B地区第1テラス出土遺物

B地区第１テラスの土層序は、遺構面上位に第1層腐葉土、第２層流土と２層に分けられ、遺構面直上の流土から多量に遺物が出土している。

１～29（第９図）はB地区第１テラスから出土した遺物で、１～６は腐食土層（第１層）から出土した遺物、７～29は流土層（第２層）から出土した遺物である。

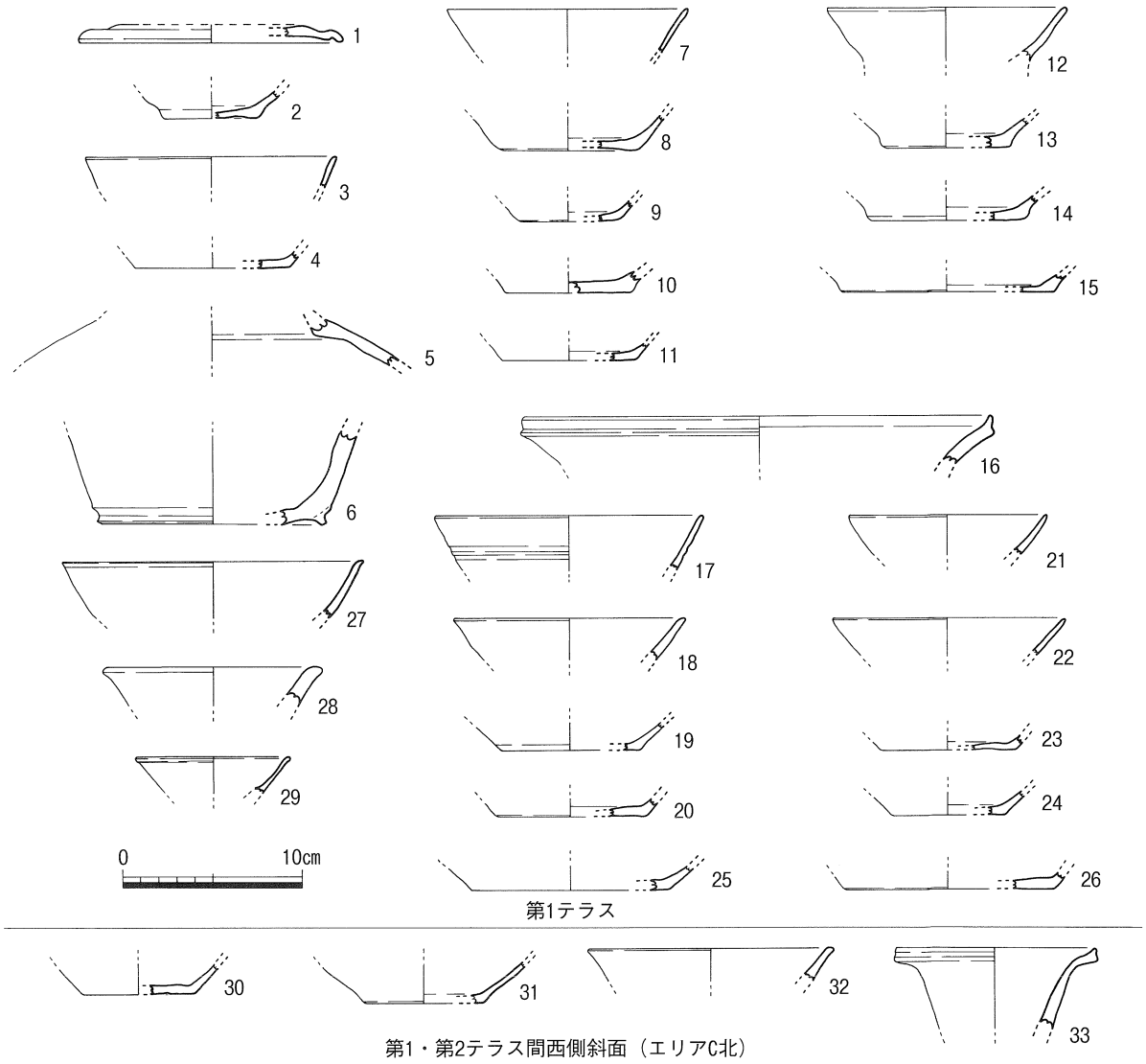
１は須恵器坏蓋で、口縁端部を下方に丸く屈曲させ、内面には沈線状の窪みを持つ。天井部外面はヘラ切りのち未調整。２は土師器坏で、底部はヘラ切りされた平底で、体部は外上方に延びる。３・４は須恵器坏で、底部はヘラ切りされた平底で、体部は直線的に外上方に延び、口縁部はやや外反させる。５は須恵器壺で、肩部の破片である。６は須恵器壺の底部で、底部と体部の境に外方に踏ん張る方形の高台が付く。７～11は土師器坏で、底部はヘラ切りされた平底を呈し、体部は直線的に外上方に延びる。12～14は土師器坏で、底部がやや突出した円盤状高台を呈するものである。15は土師器皿である。底部はヘラ切りされた平底で、体部は外上方に延びる。16は土師質土鍋で、外反気味の頸部から口縁端部を上方に摘み上げ、外面に沈線状の窪みを持つ。17～24は須恵器坏で、ヘラ切りされた平底の底部から体部は内湾気味に外上方に延びるものと直線的に外上方に延びるものがある。25・26は須恵器皿で、ヘラ切りされた底部から体部は直線的に外上方に延びる。27は須恵器椀で、内湾気味の体部から口縁端部を外方に摘み出し、口唇部をシャープに終わらせる。28は須恵器壺の口縁で、口縁端部をやや外反させる。29は緑釉土器で、体部は直線的に外上方に延び、端部を外反させる。端部内面には僅かに沈線を持つ。体部内外面に黄味がかった釉が薄くかかっており、胎土は精良である。京都系の緑釉陶器の耳皿と考えられる。

第１テラスから出土した遺物を見ると土師器坏と須恵器坏がかなり多量に出土し、若干の須恵器・土師器の皿、壺、土師質土器が出土している。時期は土師器坏、須恵器坏から10世紀前半と考えられ、焼成の違いはあるが、ほぼ同形態を呈する点でもこの時期の特徴を表している。また１点ではあるが、報文番号１須恵器坏蓋が出土しており、第１テラスの遺構の時期が9世紀前半まで遡る可能性がある。

②B地区第１・第２テラス間西側斜面（エリアC北）出土遺物

30～33（第９図）はB地区第１テラスと第２テラス間の西側斜面（エリアＣの北側斜面）から出土した遺物で、全て第１層腐葉土から出土したものである。

30・31は須恵器坏で、ヘラ切りされた平底の底部から、体部は直線的に外上方に延びる。32は



第９図　Ｂ地区第１テラス、第１・第２テラス間西側斜面（エリアＣ北）出土遺物実測図

須恵器皿で、口径が13.5cmと小ぶりの皿である。33は西播磨産の須恵器壺の口縁で直線的に外上方に延びる頸部から口縁部をほぼ水平に外方に屈曲させ、端部を上面に摘み上げる。端部外面に僅かに１条の沈線が施されている。内外面に透明釉がかかり、胎土は精良、焼成は良好。

B地区第１・第２テラス間西側斜面（エリアC北）から出土した遺物を見るとほぼ第１テラスから出土した遺物と同じで、同時期と考えられる。

③B地区第２テラス西側（エリアC）出土遺物

B地区第２テラス西側（エリアC）の土層序は、大別すると遺構面上位に第１層腐葉土の上層、第６・７・10層流土の中層、第12層焼土の下層と３層に分けられ、遺物のほとんどは中・下層から出土している。

34～86（第10図）はB地区第２テラス西側（エリアC）から出土した遺物で、34～36は腐葉土層（上

層）から出土した遺物、37～85は流土層（中層）から出土した遺物、86は下層の焼土層から出土した遺物である。

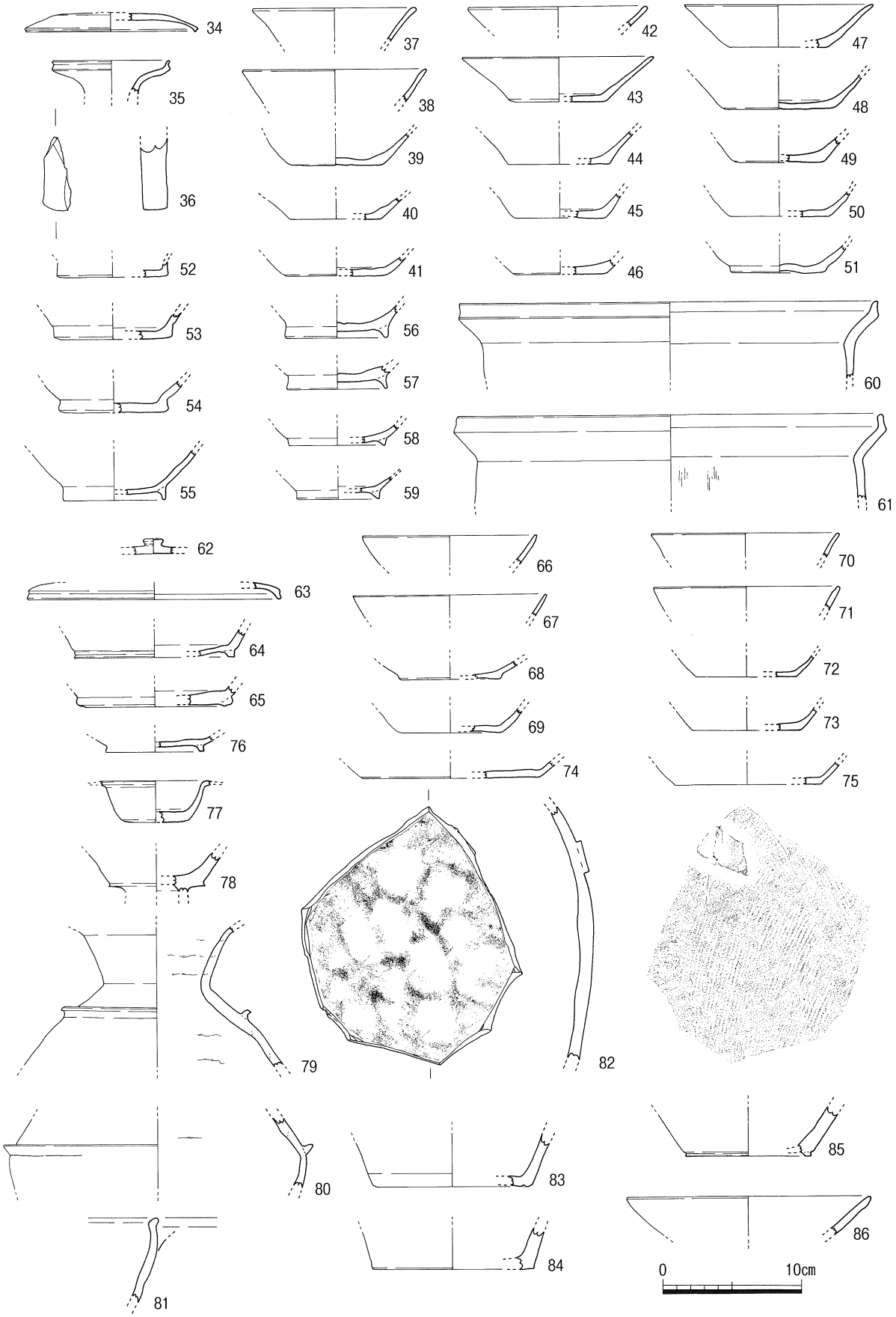
34は須恵器蓋で、天井部がほぼ水平で、口縁端部にかけて緩やかに屈曲し、端部外面に僅かに沈線を持つように短く下方に摘み出す。35は西播磨産須恵器多口瓶の小型の壺口縁部で、口径から肩部に付く壺の口縁と考えられる。36は安山岩製の砥石と考えられる。37～51は土師器坏で、ヘラ切りされた底部から、体部は直線的に外上方に延びる。52～54は土師器円盤状高台椀で、底部は１cm程度突出した形状を呈する。底部はヘラ切りされた平底から体部は直線的に外上方に延びる。55～59は土師器椀である。55はヘラ切りされた底部から体部が直線的に外上方に延びる坏部を呈し、底部と体部の境に断面長方形の高台が付く。58は底部と体部の境が緩やかに屈曲するものである。60・61は土師質土鍋で、長胴の体部から口縁部が「く」の字に屈曲し、口縁部を上方に摘み上げる。62・63は須恵器蓋で、天井部に扁平のつまみが付く。口縁端部は外反気味に下方に屈曲する。64・65は須恵器高台付坏で、底部と体部の境に断面方形の高台と粘土紐状の高台が付く。66～73は須恵器坏で、ヘラ切りされた平底の底部から体部は直線的に外上方に延びる。形態は土師器坏とほぼ同形態で、相違点は焼成の違いのみである。74・75は須恵器皿で、ヘラ切りされた平底の底部から体部は直線的に外上方に延びる。76は須恵器椀である。77は須恵器坏で、平底の底部からやや体部は内湾気味に上方に延び、口縁部をほぼ水平に外方に屈曲させる。78は須恵器製の製品で、器種は不明である。底部に高台状のものが付くようで、底部と体部の境にシャープな突帯を持つ。体部は外上方に延び、やや外反する。79・80は西播磨産の須恵器壺で、79は緩やかに内湾する肩部に断面長方形の突帯が付く。頸部は直線的に外上方に延び、口縁部でやや外反させる。体部内面に粘土紐の接合痕が確認できる。80は肩部下位に断面三角形状の突帯が付く。79に比べるとやや退化したもので時期差があると思われる。81は須恵器鉢で、やや内湾気味の口縁部から端部は外方に摘み出す。口縁部に注ぎ口が確認できる。82は須恵器甕の体部を転用した硯で、内面に無文の当て具痕、外面に平行叩き痕が確認できる。83～85は須恵器壺で、83・84は平底で、85は平底の底部に断面方形の高台が付くものである。86は土師器坏で、体部から口縁部にかけて直線状に延びる。

第２テラスから出土した遺物を見ると土師器坏と須恵器坏がかなり多量に出土し、若干の須恵器皿、壺、土師質土器が出土している。時期は土師器坏、須恵器坏から10世紀前半と考えられ、焼成の違いはあるが、ほぼ同形態を呈する点でもこの時期の特徴を表している。また４点、須恵器坏蓋・高台付き坏が出土しており、第２テラスの遺構の時期が８世紀末～９世紀前半まで遡る可能性がある。また、55の土師器椀は９世紀後半のもので、B地区第２テラスが連綿と営まれていた可能性も考えられる。

④B地区第1・第2テラス間東側斜面（エリアD）出土遺物

87～89（第11図）はB地区第１・第２テラス間東側斜面（エリアD）から出土した遺物である。

87は須恵器坏で、体部は直線的に外上方に延びる。88は土師器坏で、ヘラ切りされた平底の底



第10図　B地区第２テラス西側（エリアC）出土遺物実測図

部から体部は直線的に外上方に延びる。89は須恵器壺で直線的に外上方に延びる頸部から口縁端部は外方にシャープに摘み出す。

出土遺物から10世紀前半と考えられる。

⑤B地区第２テラス東側（エリアB・D）出土遺物

90～109（第11図）はＢ地区第２テラス東側（エリアＢ・Ｄ）から出土した遺物である。

B地区第２テラス東側（エリアB・D）の土層序は、第１層（平成18年度時の土層）腐葉土、第３層流土、第12・13層焼土に分けられ、遺物のほとんどは焼土層のから出土している。

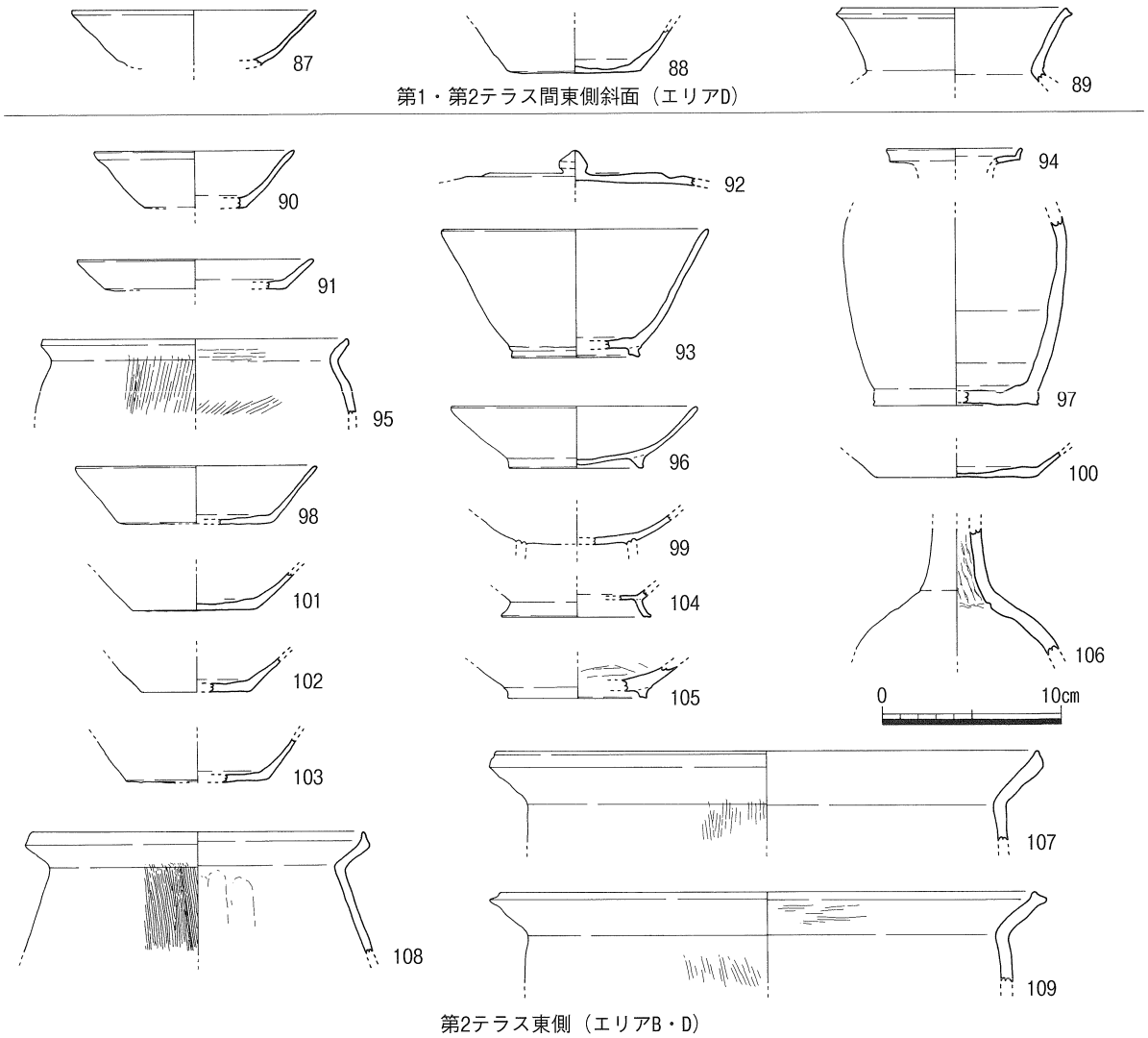
90・91は表土（腐葉土）から出土、92～95は流土から出土、96・97は流土下から出土、98・99は焼土層から出土、100～107は焼土下から出土、108・109は地山直上から出土した遺物である。これらの遺物は平成18年度の調査時に出土した遺物である。

90は須恵器坏で、やや内湾気味の体部から、口縁端部はやや外反する。91は須恵器皿で、口径13.2cmと小振りの皿である。92は須恵器蓋で、ヘラ削りの痕跡が確認できる天井部外面の中央に宝珠形のつまみが付く。内面が摩滅していることから転用硯として使用されていたものである。93は須恵器坏で、平底の底部から体部は直線的に外上方に延びる。底部と体部の境に断面方形の高台が付く。94は西播磨産須恵器多口瓶の小型壺の口縁部である。95は土師質甕である。体部内外面に刷毛目が施されている。96は黒色土器椀である。口径に比べると器高がかなり低く、緩やかに屈曲する底部と体部の境に断面方形の高台が付く。内面のみに炭素を吸着させた黒色土器A類椀である。97は須恵器壺で、未調整で円盤状を呈する底部から体部は内湾気味に上方に延びる。98は須恵器坏で、ヘラ切りされた底部から体部は直線的に外上方に延びる。99は灰釉皿である。胎土は精良で、内面に暗緑色の釉が付着している。100は須恵器皿である。101・102は土師器坏である。底部はヘラ切りされている。103は須恵器坏である。104は土師器椀で、平底の底部と体部の境に長く、外方向に延びる高台が付く。105は須恵器椀で、内面に板ナデの痕跡が確認できる。106は須恵器細頸壺である。内面に粘土紐の接合痕や絞り目が認められる。107は土師質土鍋で、「く」の字に屈曲する頸部から頸部は直線的に外上方に延び、口縁端部は僅かに上方に摘み上げる。108は土師質甕で、口縁端部を上方に摘み上げ、屈曲部には明瞭な稜を持つ。109は土師質土鍋で口縁端部を左右に摘み出す。

B地区第２テラス東側（エリアB・D）出土遺物から出土した遺物を見ると土師器坏と須恵器坏がかなり多量に出土し、若干の須恵器・土師器の皿、壺、土師質土器が出土している。時期は土師器坏、須恵器坏から10世紀前半と考えられる。96・104・109などは９世紀まで遡り、今年度調査時の出土遺物とは矛盾しない。

⑥B地区第２テラス西側（エリアC）出土の金属製品について

B地区第２テラス西側（エリアC）流土層から金属製品が出土した。天地約10cm、左右約12cm、厚さ1.0～1.5mmで、厚さは均一に仕上げられている。



第11図　B地区第１・第２テラス間東側斜面(エリアD)、第２テラス東側(エリアB・D)出土遺物実測図

香川県立ミュージアムでX線撮影（75KV8MA1M）した結果、部分的（図版14－B上部、右端）にX線で黒く見える部分（透過が高い部分）が認められ、一様の金属成分ではない可能性が高くなった。そのため、金属の成分を分析するために徳島県立博物館魚島氏に蛍光X線分析を依頼することとなった。

蛍光X線分析は、徳島県立博物館にあるエネルギー分散型蛍光X線分析装置で行い、内面で４箇所、上部黒い部分２箇所（試料02、03）、右端部分１箇所（試料07）、ほぼ中央部分１箇所（試料01）、外面で３箇所、上部黒い部分１箇所（試料06）、左端部分１箇所（試料05）、境界部分１箇所（試料04）で分析した。分析の結果、内面上部黒く見える部分の試料02と03（銅:錫＝２：１）はほぼ同じ成分で、白く見える部分（中央部分）試料01（銅：錫=約４：１）と比較すると試料02、03は錫を一定とすると銅の割合比が少なく、鉛が若干多いことが分かる。一方外面上部黒い部分試料06と左端黒い部分試料05はほぼ同じ成分で、白い部分試料04と比較すると銅成分が少なく、明らかに違いがあることが分かる。また、試料05の内面部分の試料07の成分は試料02、03と同じ成分である。以上のことから、黒い部分と白い部分には銅と錫と鉛の成分に差があることが分かっ

た。また、この金属製品の成分は銅、錫、鉛、亜鉛、砒素であることが分かった。以上の結果から、

①成分が銅、錫、鉛で、亜鉛、砒素を微量に含む金属製品であること

②黒い部分と白い部分の成分は同じであること

③黒い部分と白い部分の成分の含有割合比に差があること

※この結果がX線写真の差として現れている。

④黒い部分の成分の含有割合比はほぼ同じであること

が分かり、成分の含有割合比が違うことから可能性として、鋳掛けと十分に溶融していない金属で鋳流れが悪い結果が考えられる。また、鋳掛けと仮定すると①銅鐸などに認められる隙間がないこと、②かなり薄いことから、鋳掛けは困難であることから鋳掛けの可能性は低く、鋳流れが悪い結果と仮定すると①ほぼ中央部分の白い部分が底で、湯口の形状にもよるが周囲に成分の含有割合比の違う金属があること、②全体にかなりスが認められることから、かなり雑に造られた青銅製品で、溶融された金属も製造過程で成分の含有割合比が違い、更に鋳流れが悪かった可能性（黒い部分の模様状に見える）が高いと考えられる。

銅、鉛、錫、亜鉛、砒素の成分の含有割合比から佐波理の可能性が高く、器種としては皿か加盤（蓋･鋺）と考えられる。

4．まとめ

本年度の発掘調査はB地区第１･第２テラスにおいて実施した。

第１テラスでは平成17年度に確認した仏堂跡の南西部を調査し、縁辺部を整地した土壇状の高まりと礎石を検出した。また仏堂跡の西側では溝状の遺構を検出したことで丘陵上を溝によって区画していたことを確認した。この部分は地山の一部に岩盤が露出し、溝西側では岩盤の整地も確認した。

第２テラスでは平成17・18年度に実施した調査区の西側を調査し、掘立柱建物跡を３棟検出した。規模の大小はあるものの全て２×３間で、平成17・18年度に調査を実施した東側も含めてみると溝SD01を中心として左右対称に同方向の建物が存在していたことが分かる。どちらの建物も北側に排水溝と考えられる溝を検出しており、規則性を持った建物配置であったことが分かる。

時期は出土遺物のほとんどが10世紀前半の遺物で、この時期に規模を拡大するようであるが、８世紀末～９世紀前半の遺物もかなり出土していることから、中寺廃寺跡のA地区、C地区と比較するとB地区が最も早く営まれていたことが分かる。

参考文献・引用文献

金子裕之 1996　「木簡は語る」『歴史発掘12』講談社

成瀬正和 2002　『日本の美術 第439号 正倉院宝物の素材』

琴南町教育委員会 2006　『中寺廃寺跡 平成17年度』

まんのう町教育委員会 2008　『中寺廃寺跡 平成19年度』

第１表　土器観察表

報文番号	挿図番号	図版番号	種別・器種	調査地区	出土地点	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	残存量	胎土	色調 外面	色調 内面	調整 外面	調整 内面	備考
1	9	11	須恵器・坏蓋	B地区	第１テラス　腐植土層	14.6			口縁部1/8	砂粒細砂少	10Y6/1灰	N6/灰	横ナデ	横ナデ	
2	9	11	土師器・坏	B地区	第１テラス　腐植土層		5.2		底部1/8	石英・長石・雲母細砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	横ナデ	横ナデ	
3	9	11	須恵器・坏	B地区	第１テラス　腐植土層	14.0			口縁部小片	砂粒細砂少	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	横ナデ	横ナデ	
4	9	11	須恵器・坏	B地区	第１テラス　腐植土層		8.6		底部2/8	砂粒細砂少	5Y7/2灰白	7.5Y7/1灰白	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
5	9	11	須恵器・壷	B地区	第１テラス　腐植土層				肩部1/8	砂粒細砂少	N4/灰	N6/灰	横ナデ	横ナデ	外面に自然釉付着
6	9	11	須恵器・壷	B地区	第１テラス　腐植土層		12.8		底部2/8	砂粒細砂並	N6/灰	N6/灰	横ナデ	横ナデ	
7	9	11	土師器・坏	B地区	第１テラス　流土層	13.4			口縁部1/8	長石・雲母細砂少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	横ナデ	横ナデ	
8	9	11	土師器・坏	B地区	第１テラス　流土層		7.6		底部4/8	石英中砂少、長石・雲母細砂少	10YR6/6明黄褐	10YR7/6明黄褐	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
9	9	11	土師器・坏	B地区	第１テラス　流土層		5.4		底部小片	長石・雲母細砂少	2.5YR5/8明赤褐	2.5YR5/8明赤褐	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
10	9	11	土師器・坏	B地区	第１テラス　流土層		7.0		底部2/8	長石・雲母細砂少	10YR6/6明黄褐	7.5YR6/6橙	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
11	9	11	土師器・坏	B地区	第１テラス　流土層		7.4		底部小片	長石・雲母細砂少	2.5YR6/8橙	2.5YR6/8橙	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
12	9	11	土師器・坏	B地区	第１テラス　流土層	13.2			口縁部1/8	石英中砂少、長石・雲母細砂少	5YR5/6明赤褐	2.5Y6/2灰黄	横ナデ	横ナデ	円盤状高台付
13	9	11	土師器・坏	B地区	第１テラス　流土層		7.2		底部小片	石英・長石中砂少	10YR6/6明黄褐	2.5YR5/8明赤褐	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	円盤状高台付
14	9	11	土師器・坏	B地区	第１テラス　流土層		9.0		底部2/8	石英・長石中砂少	5YR6/8橙	2.5YR5/8明赤褐	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	円盤状高台付
15	9	11	土師器・皿	B地区	第１テラス　流土層		12.0		底部小片	長石・雲母細砂少	10YR8/6黄橙	10YR7/6明黄褐	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
16	9	11	土師質土器・鍋	B地区	第１テラス　流土層	26.0			口縁部1/8	石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	横ナデ	横ナデ	
17	9	11	須恵器・坏	B地区	第１テラス　流土層	14.9			口縁部小片	砂粒細砂少	10Y7/1灰白	10Y7/1灰白	横ナデ	横ナデ	
18	9	11	須恵器・坏	B地区	第１テラス　流土層	12.8			口縁部1/8	石英中砂少、砂粒細砂少	2.5Y6/1黄灰	2.5Y7/1灰白	横ナデ	横ナデ	
19	9	11	須恵器・坏	B地区	第１テラス　流土層		7.6		底部小片	砂粒細砂少	N5/灰	N6/灰	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
20	9	11	須恵器・坏	B地区	第１テラス　流土層		8.4		底部小片	砂粒細砂少	10Y6/1灰	7.5Y6/1灰	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
21	9	11	須恵器・坏	B地区	第１テラス　流土層	11.0			口縁部小片	砂粒細砂少	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	横ナデ	横ナデ	
22	9	11	須恵器・坏	B地区	第１テラス　流土層	13.0			口縁部1/8	砂粒細砂少	10Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
23	9	11	須恵器・坏	B地区	第１テラス　流土層		7.6		底部2/8	砂粒細砂少	10Y6/1灰	7.5Y6/1灰	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
24	9	11	須恵器・坏	B地区	第１テラス　流土層		6.4		底部小片	砂粒細砂少	7.5Y7/1灰白	7.5Y6/1灰	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
25	9	11	須恵器・皿	B地区	第１テラス　流土層		11.0		底部小片	砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
26	9	11	須恵器・皿	B地区	第１テラス　流土層		11.8		底部1/8	石英中砂少、砂粒細砂少	5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
27	9	11	須恵器・椀	B地区	第１テラス　流土層	16.8			口縁部1/8	砂粒細砂並	7.5Y7/1灰白	5Y7/2灰白	横ナデ	横ナデ	
28	9	11	須恵器・壷	B地区	第１テラス　流土層	11.7			口縁部小片	砂粒細砂少	N5/灰	N6/灰	横ナデ	横ナデ	
29	9	11	緑釉・耳皿	B地区	第１テラス　流土層	8.5			口縁部2/8	砂粒細砂少	5Y7/2灰白	5Y7/2灰白	横ナデ	横ナデ	全体に黄味がかった釉付着
30	9	11	須恵器・坏	B地区	第１・2間斜面　流土層		6.2		底部1/8	砂粒細砂並	10Y7/1灰白	N7/灰白	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
31	9	11	須恵器・坏	B地区	第１・2間斜面　流土層		7.0		底部小片	砂粒細砂並	2.5Y6/2灰黄	10Y7/1灰白	横ナデ	横ナデ	

報文番号	挿図番号	図版番号	種別・器種	調査地区	出土地点	法量(cm)			残存量	胎土	色調		調整		備考
						口径	底径	器高			外面	内面	外面	内面	
32	9	11	須恵器・皿	B地区	第1・2間斜面　流土層	13.5			口縁部小片	砂粒細砂並	7.5Y7/1灰白	N6/灰	横ナデ	横ナデ	
33	9	11	須恵器・壷	B地区	第1・2間斜面　流土層	11.0			口縁部1/8	砂粒細砂並	5Y6/1灰	N7/灰白	横ナデ	横ナデ	西播磨産 外面・内面に自然釉
34	10	12	須恵器・蓋	B地区	第2テラス　腐植土層	12.0			口縁部2/8	砂粒細砂少	N6/灰	5Y7/1灰白	横ナデ	横ナデ	
35	10	12	須恵器・壷	B地区	第2テラス　腐植土層	8.2			口縁部5/8	砂粒細砂並	N6/灰	N6/灰	横ナデ	横ナデ	西播磨産　多口瓶
37	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層	11.6			口縁部小片	長石・雲母細砂少	5YR5/6明赤褐	7.5YR6/6橙	横ナデ	横ナデ	
38	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層	13.0			口縁部1/8	長石・雲母細砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	横ナデ	横ナデ	
39	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層		6.8		底部8/8	長石中砂少、雲母細砂少	10YR8/3浅黄橙	10YR8/2灰白	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
40	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層		6.4		底部1/8	石英・長石中砂少	10YR7/6明黄褐	10YR6/6明黄褐	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
41	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層		7.4		底部6/8	長石・雲母細砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
42	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層	12.6			口縁部1/8	石英中砂少、雲母細砂並	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	横ナデ	横ナデ	
43	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層	13.5	7.0	3.2	4/8	長石・雲母細砂並	5YR6/8橙	5YR6/8橙	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
44	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層		7.2		底部1/8	長石・雲母細砂並	10YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
45	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層		6.4		底部3/8	長石・雲母細砂並	10YR8/4浅黄橙	10YR8/2灰白	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
46	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層		6.8		底部2/8	長石・雲母細砂少	7.5YR6/6橙	5YR6/8橙	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
47	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層	13.6	7.0	3.0	1/8	長石・雲母細砂少	10YR6/6明黄褐	10YR7/6明黄褐	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
48	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層		8.0		底部4/8	石英・長石中砂少	5YR5/8明赤褐	5YR6/8橙	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
49	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層		6.6		底部1/8	長石・雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/4浅黄橙	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
50	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層		7.0		底部1/8	長石中砂少	10YR6/6明黄褐	7.5YR4/1褐灰	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
51	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　流土層		6.8		底部8/8	長石中砂少	5YR5/8明赤褐	5YR6/8橙	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
52	10	12	土師器・椀	B地区	第2テラス　流土層		8.0		底部3/8	長石・雲母細砂少	2.5YR5/8明赤褐	2.5YR5/8明赤褐	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	円盤状高台付
53	10	12	土師器・椀	B地区	第2テラス　流土層		8.4		底部2/8	長石・雲母細砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	円盤状高台付
54	10	12	土師器・椀	B地区	第2テラス　流土層		7.8		底部2/8	石英・長石・雲母細砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	円盤状高台付
55	10	12	土師器・椀	B地区	第2テラス　流土層		7.2		底部2/8	砂粒・雲母細砂少	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙	横ナデ	横ナデ	
56	10	12	土師器・椀	B地区	第2テラス　流土層		7.4		底部8/8	石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙	横ナデ	横ナデ	
57	10	12	土師器・椀	B地区	第2テラス　流土層		7.2		底部6/8	石英・長石中砂少、雲母細砂少	2.5Y8/4淡黄	2.5Y8/2灰白	横ナデ	横ナデ	
58	10	12	土師器・椀	B地区	第2テラス　流土層		6.8		底部小片	砂粒細砂少	5YR5/8明赤褐	5YR6/6橙	横ナデ	横ナデ	
59	10	12	土師器・椀	B地区	第2テラス　流土層		6.0		底部2/8	長石・雲母細砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	横ナデ	横ナデ	
60	10	12	土師質土器・鍋	B地区	第2テラス　流土層	29.8			口縁部1/8	石英中砂並、長石細砂少	10YR6/4にぶい黄橙	5YR5/8明赤褐	横ナデ	横ナデ	
61	10	12	土師質土器・鍋	B地区	第2テラス　流土層	31.0			口縁部1/8	石英・長石中砂並	10YR6/4にぶい黄橙	5YR5/8明赤褐	横ナデ・縦ハケ	横ナデ	
62	10	12	須恵器・蓋	B地区	第2テラス　流土層			1.1	つまみ8/8	砂粒細砂少	N6/灰	N7/灰白	横ナデ	横ナデ	
63	10	12	須恵器・蓋	B地区	第2テラス　流土層	17.8			口縁部小片	砂粒細砂少	10Y7/1灰白	7.5Y6/1灰	横ナデ	横ナデ	
64	10	12	須恵器・坏	B地区	第2テラス　流土層		11.4		底部小片	砂粒細砂少	N7/灰白	N7/灰白	横ナデ	横ナデ	高台付

報文番号	挿図番号	図版番号	種別・器種	調査地区	出土地点	法量(cm)			残存量	胎土	色調		調整		備考
						口径	底径	器高			外面	内面	外面	内面	
65	10	12	須恵器・坏	B地区	第2テラス　流土層		10.8		底部3/8	砂粒細砂並	N5/灰	N6/灰	横ナデ	横ナデ	高台付
66	10	12	須恵器・坏	B地区	第2テラス　流土層	12.4			口縁部小片	砂粒細砂少	N6/灰	N7/灰白	横ナデ	横ナデ	
67	10	12	須恵器・坏	B地区	第2テラス　流土層	13.8			口縁部小片	砂粒細砂少	5Y6/1灰	5Y7/1灰白	横ナデ	横ナデ	
68	10	12	須恵器・坏	B地区	第2テラス　流土層		7.4		底部1/8	砂粒細砂少	N5/灰	N6/灰	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
69	10	12	須恵器・坏	B地区	第2テラス　流土層		7.2		底部2/8	砂粒細砂少	10Y7/1灰白	7.5Y6/1灰	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
70	10	12	須恵器・坏	B地区	第2テラス　流土層	13.6			口縁部小片	砂粒細砂少	7.5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	横ナデ	横ナデ	
71	10	12	須恵器・坏	B地区	第2テラス　流土層	13.4			口縁部小片	砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	横ナデ	横ナデ	
72	10	12	須恵器・坏	B地区	第2テラス　流土層		7.2		底部1/8	砂粒細砂少	10Y7/1灰白	10Y7/1灰白	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
73	10	12	須恵器・坏	B地区	第2テラス　流土層		7.8		底部2/8	砂粒細砂少	10Y7/1灰白	10Y7/1灰白	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
74	10	12	須恵器・皿	B地区	第2テラス　流土層		12.8		底部1/8	砂粒細砂並	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
75	10	12	須恵器・皿	B地区	第2テラス　流土層		10.6		底部小片	砂粒細砂並	N4/灰	N5/灰	横ナデ	横ナデ	
76	10	12	須恵器・椀	B地区	第2テラス　流土層		7.0		底部4/8	砂粒細砂少	10Y7/1灰白	2.5Y8/2灰白	横ナデ	横ナデ	
77	10	12	須恵器・坏	B地区	第2テラス　流土層		4.8		底部4/8	砂粒細砂並	2.5Y7/1灰白	5Y7/2灰白	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
78	10	12	須恵器	B地区	第2テラス　流土層					砂粒細砂少	N7/灰白	N7/灰白	横ナデ	横ナデ	西播磨産、器種不明
79	10	12	須恵器・壷	B地区	第2テラス　流土層				口縁部・肩部1/8	砂粒細砂並	7.5Y6/1灰	N7/灰白	横ナデ	横ナデ	西播磨産　多口瓶外面全体・内面口縁部に自然釉付着
80	10	12	須恵器・壷	B地区	第2テラス　流土層				体部破片	砂粒細砂並	N6/灰	N7/灰白	横ナデ	横ナデ	西播磨産　多口瓶外面全体に自然釉付着
81	10	12	須恵器・鉢	B地区	第2テラス　流土層				口縁部破片	砂粒中砂並	10Y8/1灰白	5Y8/2灰白	横ナデ	横ナデ	
82	10	12	転用硯	B地区	第2テラス　流土層				体部破片	砂粒細砂少	N4/灰	N6/灰	当て具痕	平行叩き	須恵器・甕　体部転用
83	10	12	須恵器・壷	B地区	第2テラス　流土層		11.4		底部1/8	砂粒細砂並	N6/灰	N5/灰	横ナデ・未調整	横ナデ	
84	10	12	須恵器・壷	B地区	第2テラス　流土層		11.4		底部小片	砂粒細砂少	N6/灰	N7/灰白	横ナデ	横ナデ	
85	10	12	須恵器・壷	B地区	第2テラス　流土層		9.1		底部小片	砂粒中砂少	N5/灰	N6/灰	横ナデ	横ナデ	
86	10	12	土師器・坏	B地区	第2テラス　焼土層	17.5			口縁部小片	石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR7/6明黄褐	10YR8/6黄橙	横ナデ	横ナデ	
87	11	13	須恵器・坏	B地区	第1・2間斜面腐植土層	13.6			口縁部1/8	砂粒中砂少	N6/灰	N5/灰	横ナデ	横ナデ	
88	11	13	土師器・坏	B地区	第1・2間斜面腐植土層		7.5		底部5/8	長石・雲母細砂少	10YR7/4にぶい黄橙	2.5Y7/4浅黄	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
89	11	13	須恵器・壷	B地区	第1・2間斜面腐植土層	12.5			口縁部1/8	砂粒細砂並	2.5Y5/2暗灰黄	2.5Y5/2暗灰黄	横ナデ	横ナデ	
90	11	13	須恵器・坏	B地区	第2テラス　表土	11.2	5.8		1/8	砂粒細砂少	N5/灰	N5/灰	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
91	11	13	須恵器・皿	B地区	第2テラス　表土	13.2	10.2		小片	砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	横ナデ	横ナデ	

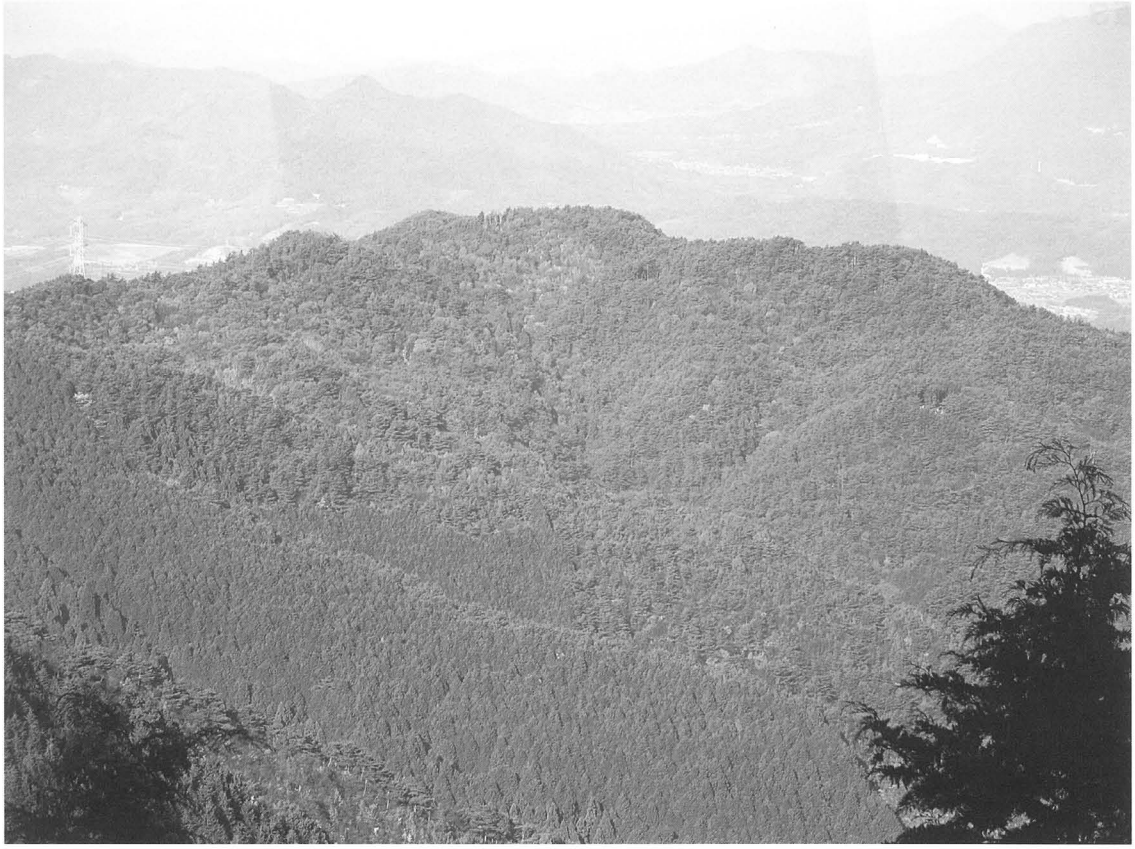
報文番号	挿図番号	図版番号	種別・器種	調査地区	出土地点	法量(cm)			残存量	胎土	色調		調整		備考
						口径	底径	器高			外面	内面	外面	内面	
92	11	13	転用硯	B地区	第2テラス　流土層			1.7	つまみ8/8	砂粒細砂少	N6/灰	N7/灰白	ヘラ切り、横ナデ	磨り面	須恵器・蓋　蓋転用
93	11	13	須恵器・坏	B地区	第2テラス　流土層	15.0	7.2	7.1	口縁部3/8 底部2/8	石英・長石中砂少、砂粒細砂並	N6/灰	N5/灰	横ナデ	横ナデ	高台付
94	11	13	須恵器・壷	B地区	第2テラス　流土層	7.6			口縁部小片	砂粒細砂少	N5/灰	N4/灰	横ナデ	横ナデ	西播磨産　多口瓶
95	11	13	土師質土器・甕	B地区	第2テラス　流土層	17.0			口縁部1/8	長石細砂少	5YR6/8橙	5YR6/6橙	ハケ目	ハケ目	
96	11	13	黒色土器・椀	B地区	第2テラス　流土層下位	13.8	7.6	3.4	口縁部1/8 底部8/8	石英・長石中砂並	5YR5/6明赤褐	7.5Y3/1オリーブ黒	横ナデ	横ナデ	A類
97	11	13	須恵器・壷	B地区	第2テラス　流土層下位		9.2		体部2/8 底部4/8	砂粒細砂小	N6/灰	N7/灰白	横ナデ・未調整	横ナデ	
98	11	13	須恵器・坏	B地区	第2テラス　焼土層	13.4	8.6	3.2	口縁部1/8 底部4/8	石英・長石中砂少、雲母細砂少	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
99	11	13	灰釉・皿	B地区	第2テラス　焼土層				底部1/8	砂粒細砂少	N8/灰白	N8/灰白	横ナデ	横ナデ	内面に自然釉付着
100	11	13	須恵器・皿	B地区	第2テラス　焼土層下位		8.9		底部4/8	砂粒中砂並	10Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
101	11	13	土師器・坏	B地区	第2テラス　焼土層下位		7.0		底部4/8	長石・雲母細砂少	7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
102	11	13	土師器・坏	B地区	第2テラス　焼土層下位		6.1		底部4/8	長石細砂少	5YR5/8明赤褐	5YR6/6橙	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
103	11	13	須恵器・坏	B地区	第2テラス　焼土層下位		8.0		底部3/8	砂粒細砂並	10Y7/1灰白	10Y7/1灰白	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	
104	11	13	土師器・椀	B地区	第2テラス　焼土層下位		8.4		底部2/8	長石・雲母細砂少	5YR5/8明赤褐	5YR5/8明赤褐	横ナデ	横ナデ	
105	11	13	須恵器・椀	B地区	第2テラス　焼土層下位		7.8		底部2/8	砂粒細砂少	10Y7/1灰白	7.5Y6/1灰	板ナデ	横ナデ	
106	11	13	須恵器・細頸壷	B地区	第2テラス　焼土層下位				頸部・肩部6/8	砂粒細砂少	N5/灰	5YR5/6明赤褐	横ナデ	横ナデ・しぼり面	
107	11	13	土師質土器・鍋	B地区	第2テラス　焼土層下位	30.0			口縁部1/8	石英・長石・雲母細砂少	7.5YR6/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	ハケ目・横ナデ	ハケ目・横ナデ	
108	11	13	土師質土器・甕	B地区	第2テラス　地山直上	18.4			口縁部2/8	石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/6橙	2.5Y7/4浅黄	ハケ目・横ナデ	指ナデ・横ナデ	
109	11	13	土師質土器・鍋	B地区	第2テラス　地山直上	30.0			口縁部1/8	石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/8橙	5YR6/6橙	ハケ目	ハケ目	

第２表　石製品観察表

報文番号	挿図番号	図版番号	種別・器種	調査地区	出土地点	法量(cm)			残存量	胎土	色調		調整		備考
						残存長	最大幅	最大厚			外面	内面	表面	裏面	
36	10	12	砥石	B地区	第2テラス　腐植土層	5.2	1.9	1.8	破片	安山岩	N4/灰	N5/灰	磨り面	自然面	

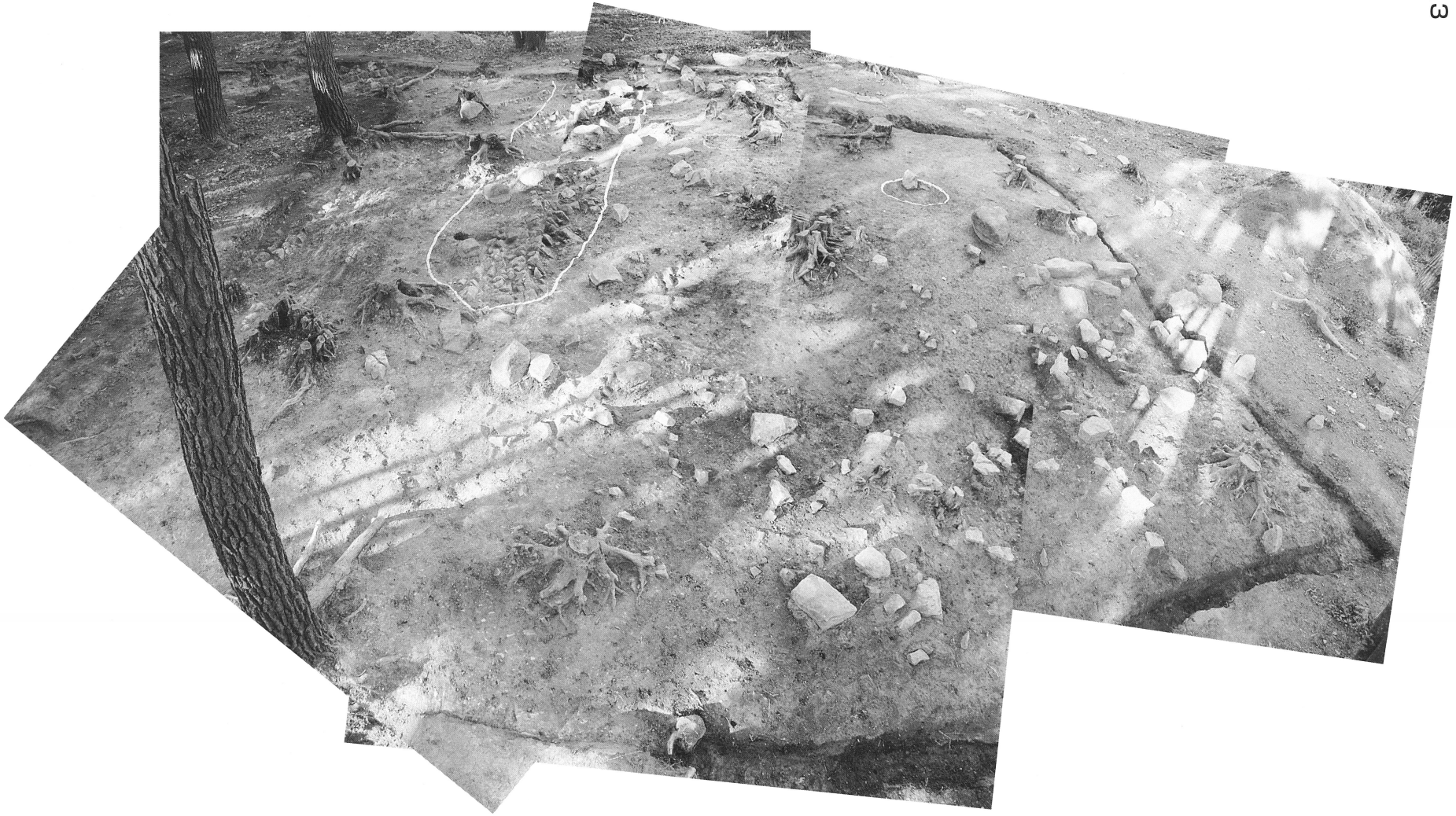
第３表　金属製品観察表

報文番号	挿図番号	図版番号	種別・器種	調査地区	出土地点	法量(cm)			残存量	材質	蛍光X線写真観察所見	色調		備考
						残存長	最大幅	最大厚				外面	内面	
		15	金属製品・（皿か加盤）	B地区	第2テラス　流土層	10.0	12.0	1.5		銅・錫・鉛・亜鉛・砒素	鋳流し時のムラあり	7.5Y8/2灰白	N5/灰	佐波理の可能性あり



A）中寺廃寺跡全景（南東より）

B）地区第１テラスより大川山を望む（北西より）



B地区第１テラス礎石建物跡南西半検出状況(南より)

A）B地区第１テラス礎石建物跡南西半石群検出状況（南より）

B）B地区第１テラスSD05全景（北より）

C）B地区第１テラスSD05全景（南より）

図版５

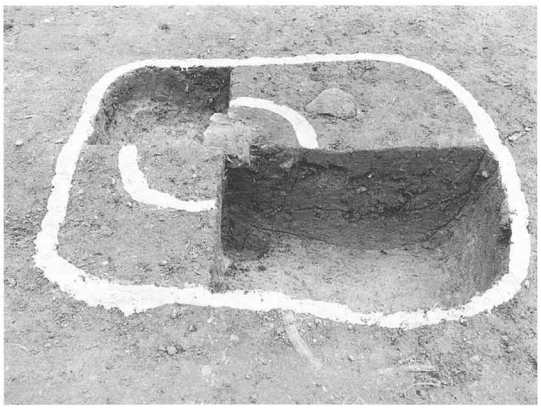
A）B地区第１テラス礎石建物跡から西部分検出状況(東より)

B）B地区第１テラス礎石建物跡から西部分検出状況（南より）

C）B地区第１テラス礎石建物跡から西の岩盤削平部分検出状況（南西より）

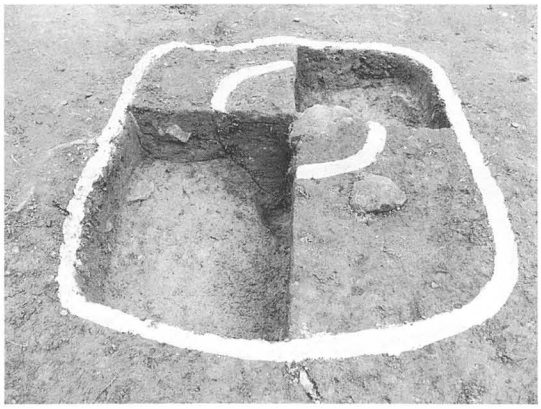
A）B地区第１テラス広場状遺構北半検出状況（東より）

B）B地区第１テラス広場状遺構北半検出状況（西より）



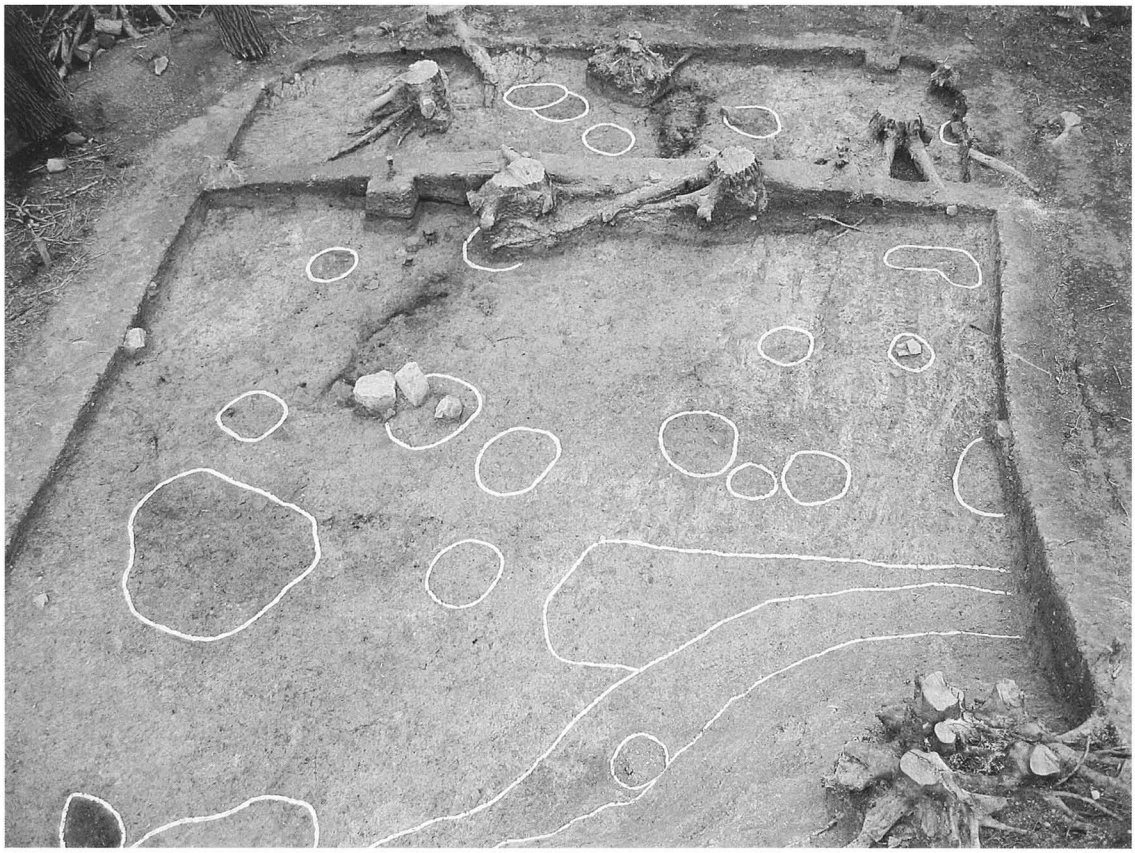
D）B地区第１テラス広場状遺構柱穴土層断面（北より）

C）B地区第１テラス広場状遺構柱穴南拡張部分検出状況（東より）



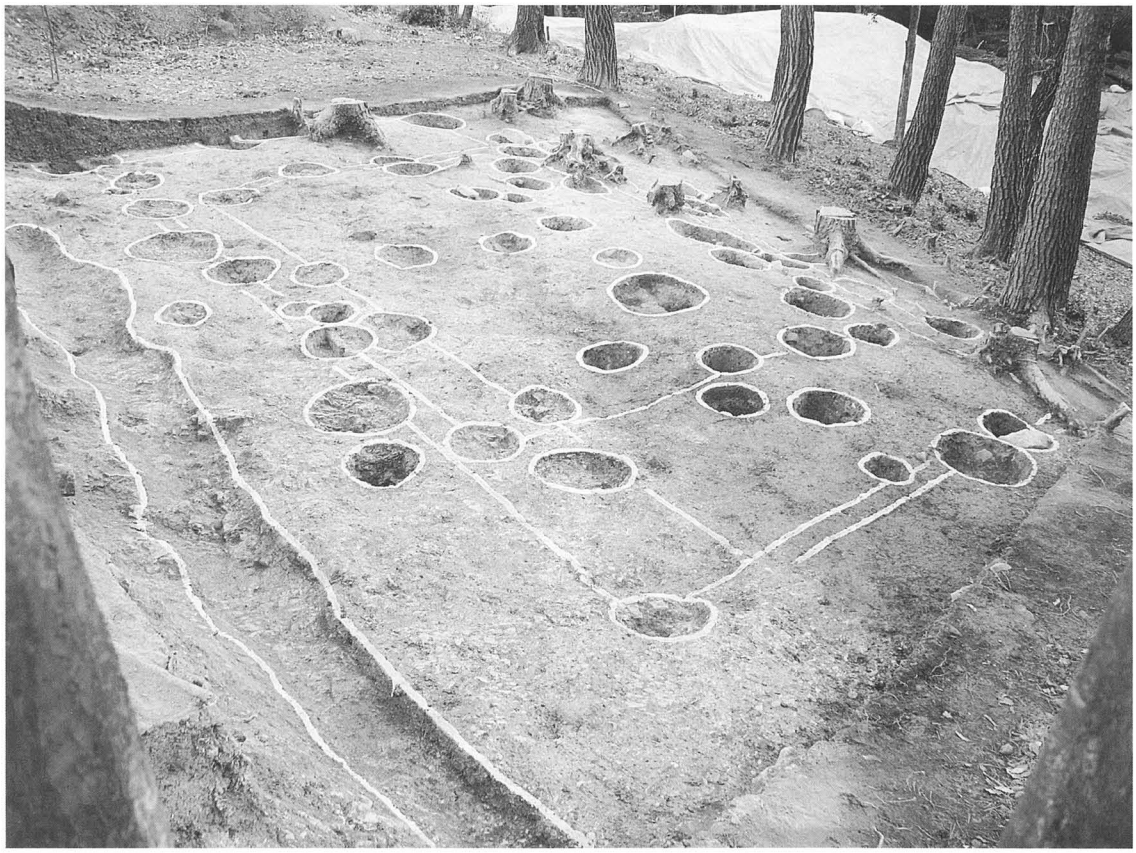
E）B地区第１テラス広場状遺構柱穴土層断面（西より）

図版７



A）B地区第２テラス東側（エリアB・D）全景（北から）

B）B地区第２テラス東側（エリアB）北壁a - a' 土層断面（南東から）



A）B地区第２テラス西側（エリアC）全景（北西から）

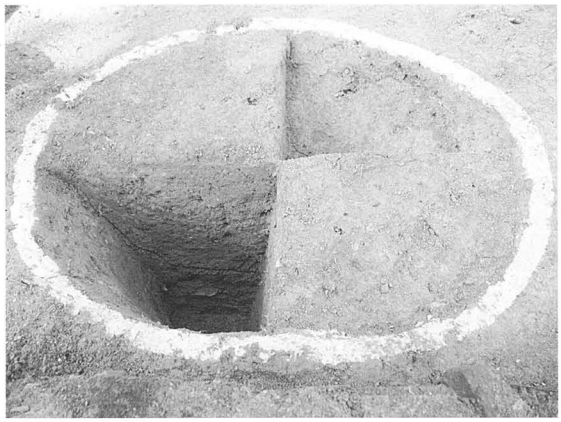
B）B地区第２テラス西側（エリアC）全景（南東から）

図版９

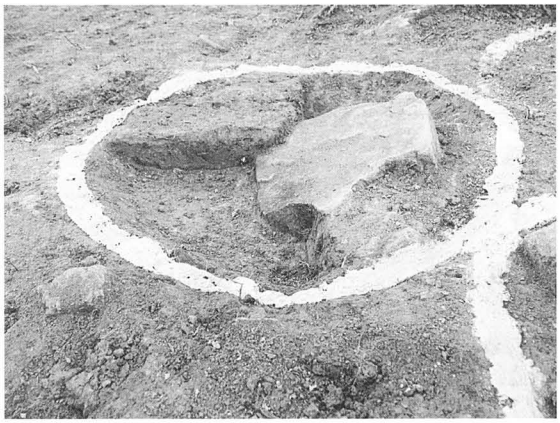
A）B地区第２テラスSD06全景（西から）

B）B地区第２テラスSD06全景（東から）

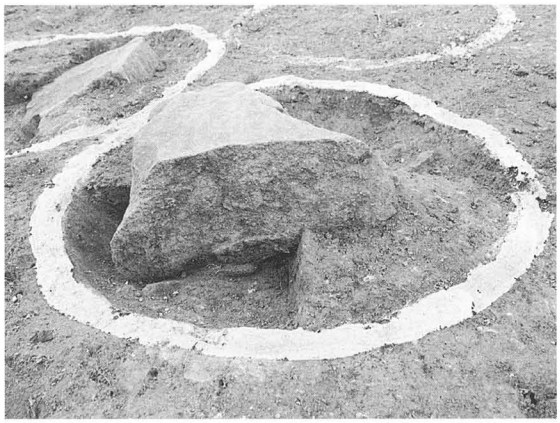
C）B地区第２テラス西側（エリアC）西壁土層断面（北東から）



A）B地区第２テラスSB05-SP05土層断面(東から)



B）B地区第２テラスSB06-SP06土層断面（東から）

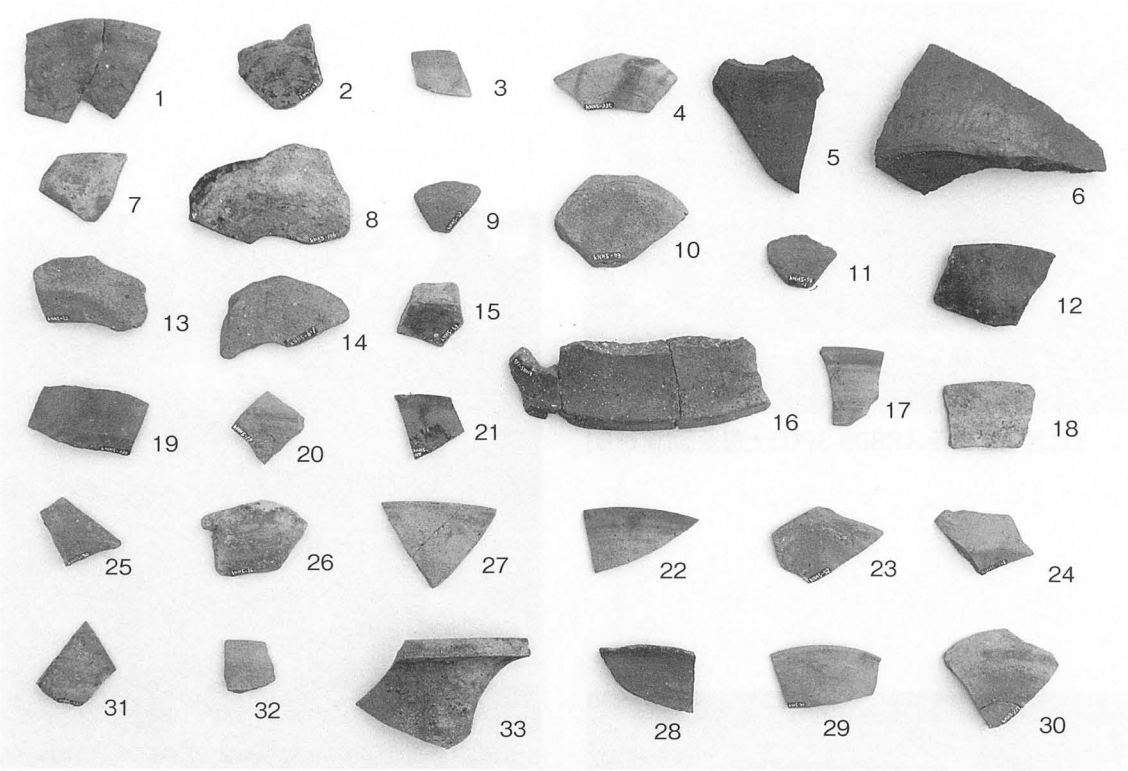


C）B地区第２テラスSB07-SP06土層断面（東から）

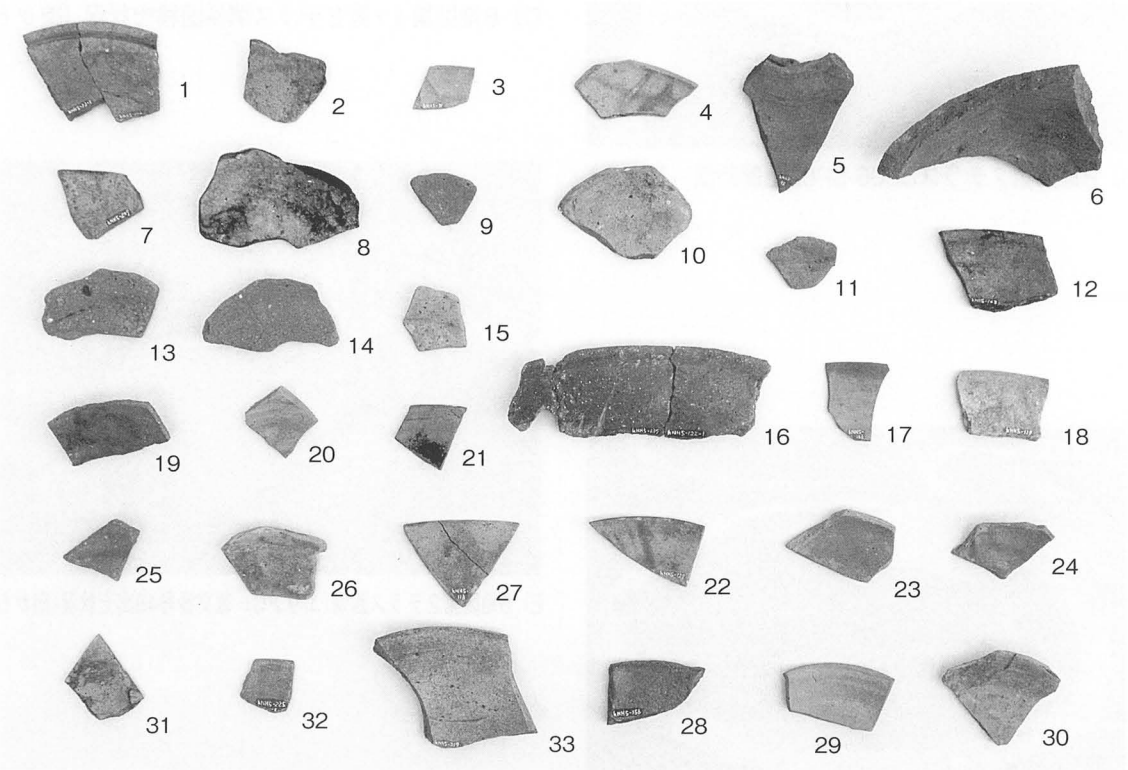
D）B地区第１・第２テラス間斜面検出状況（南から）

E）B地区第２テラス西側(エリアC）報文番号48出土状況(南から)

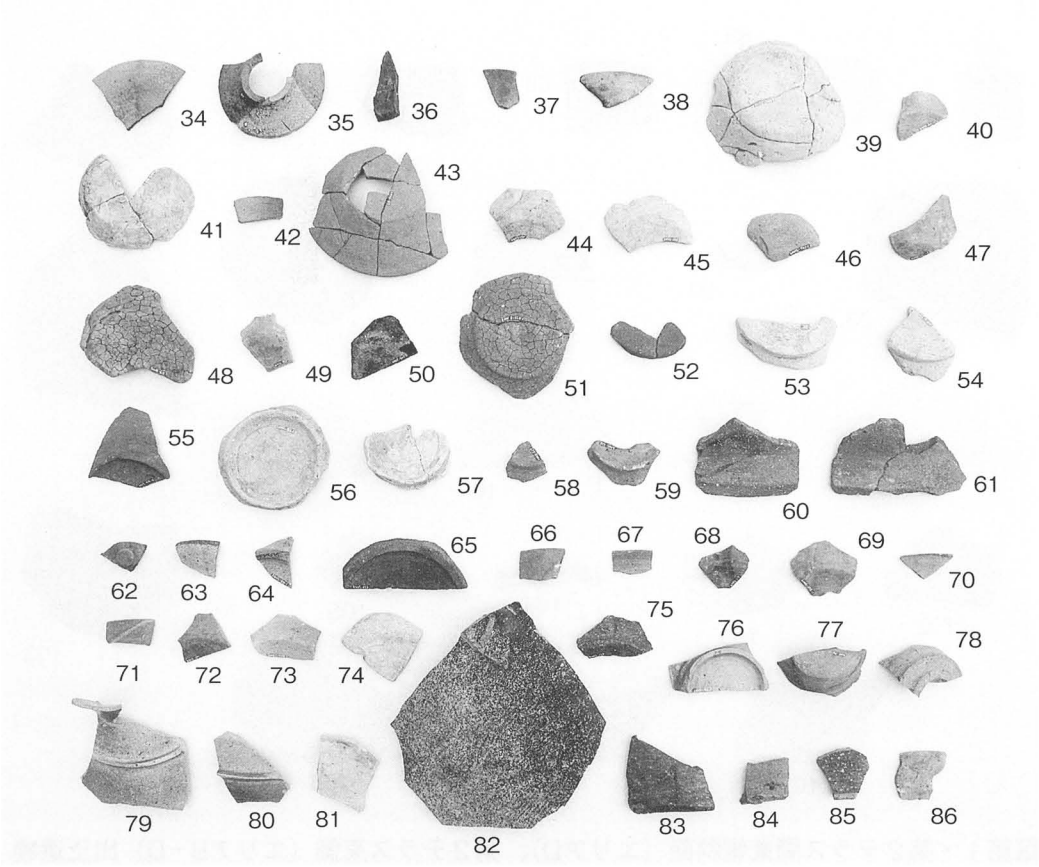
図版11



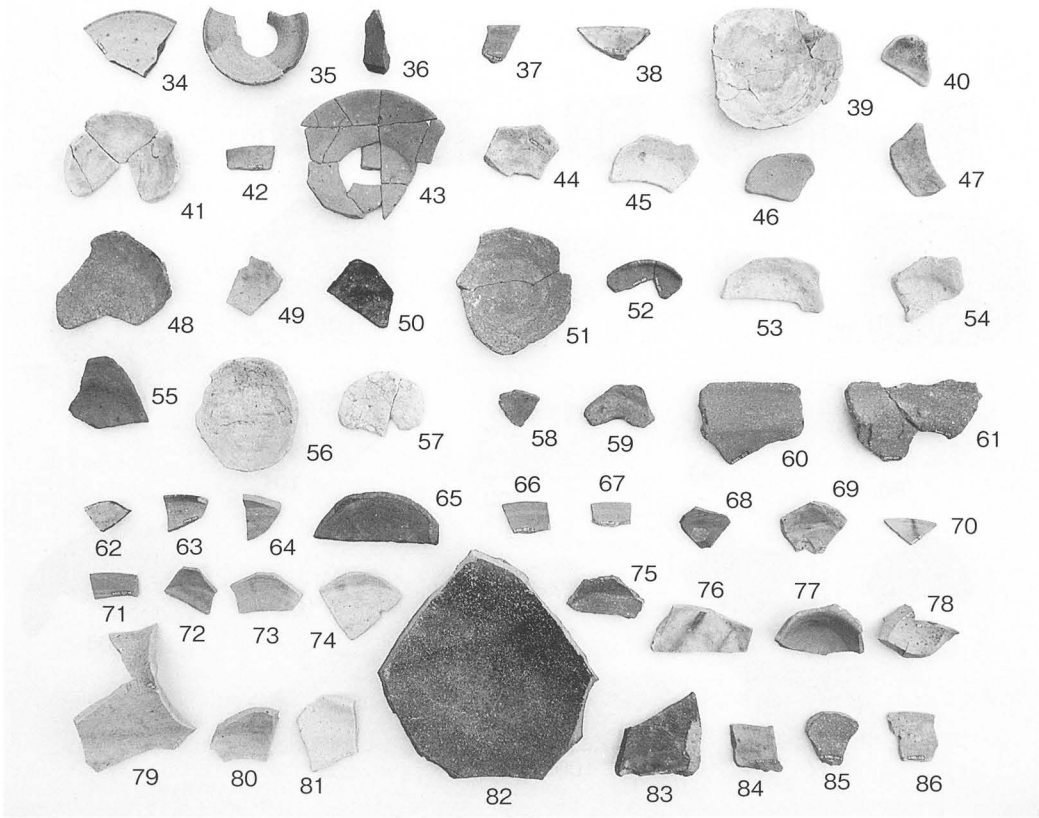
A）B地区第１テラス、第１・第２テラス間西側斜面（エリアC北）出土遺物（外面）



A）B地区第１テラス、第１・第２テラス間西側斜面（エリアC北）出土遺物（内面）

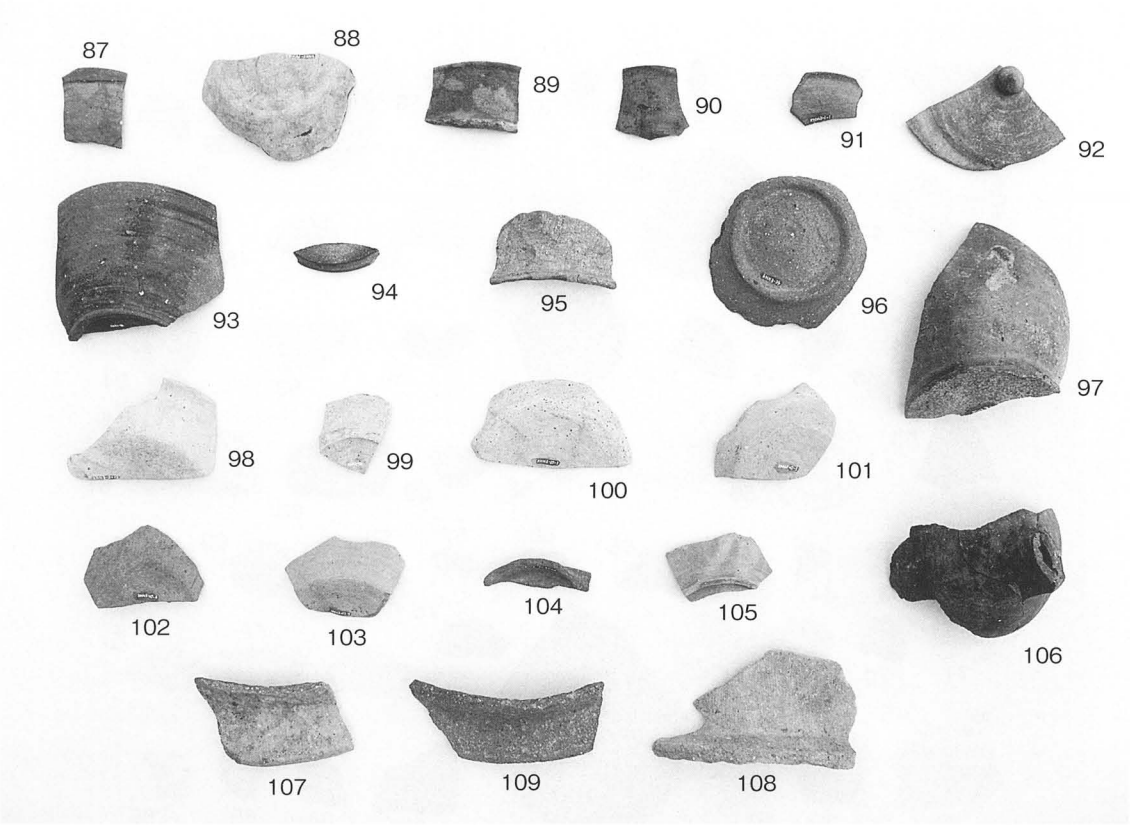


A）B地区第２テラス西側（エリアC）出土遺物（外面）

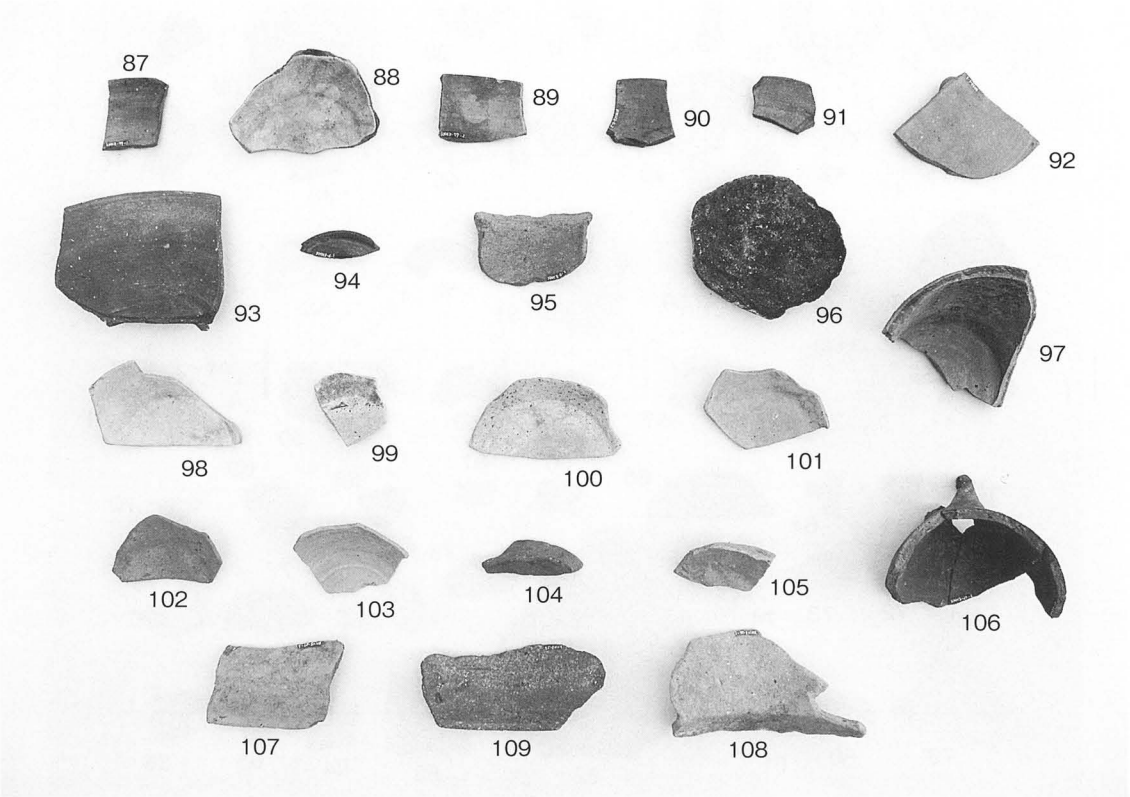


B）B地区第2テラス西側（エリアC）出土遺物（内面）

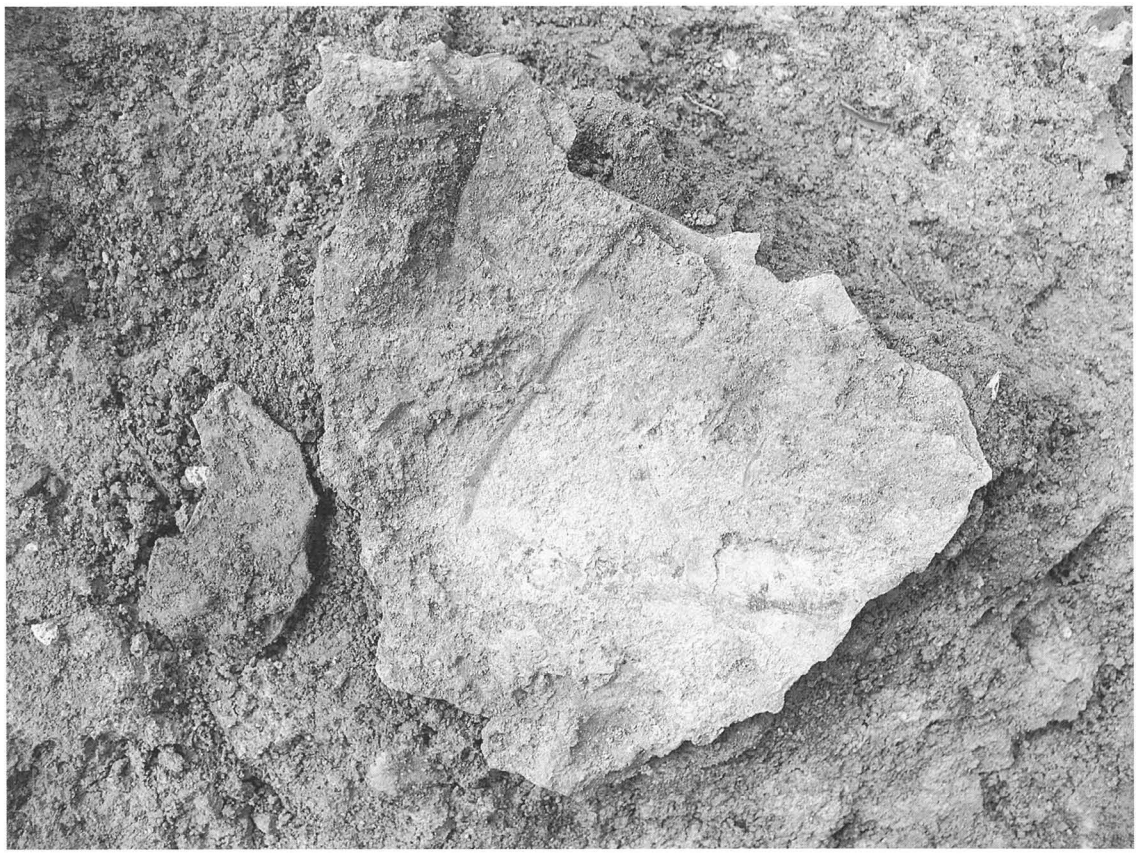
図版13



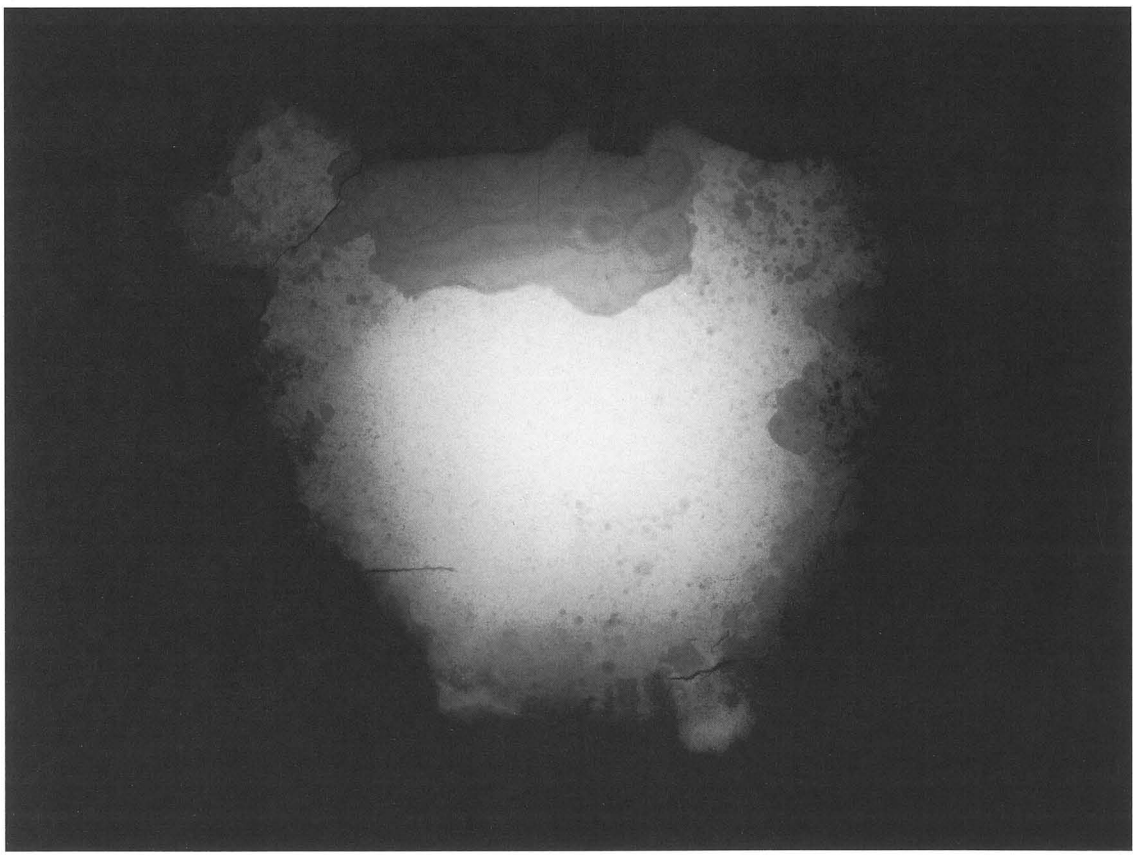
A）B地区第１・第２テラス間東側斜面（エリアD）、第２テラス東側（エリアB・D）出土遺物（外面）



A）B地区第１・第２テラス間東側斜面（エリアD）、第２テラス東側（エリアB・D）出土遺物（内面）

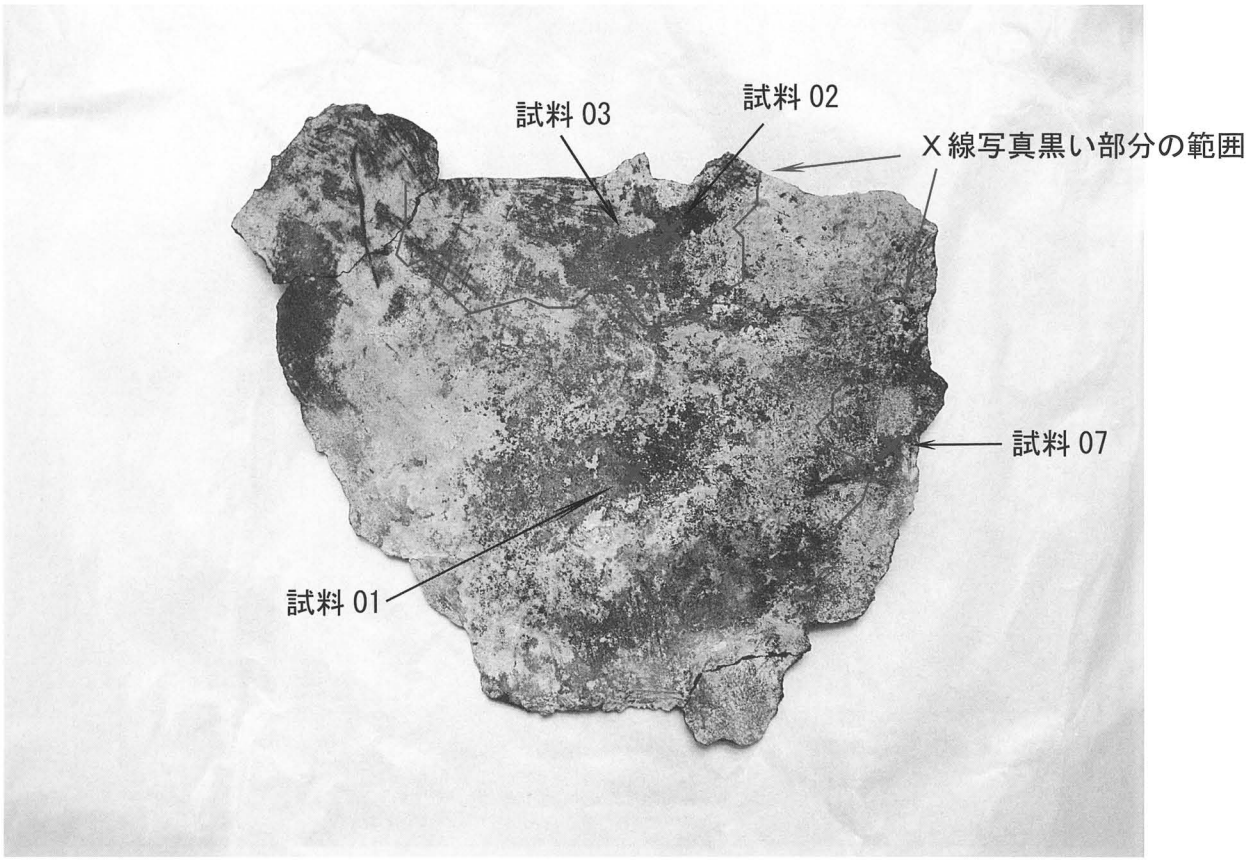


A）B地区第２テラス西側（エリアC）金属製品出土状況（北より）

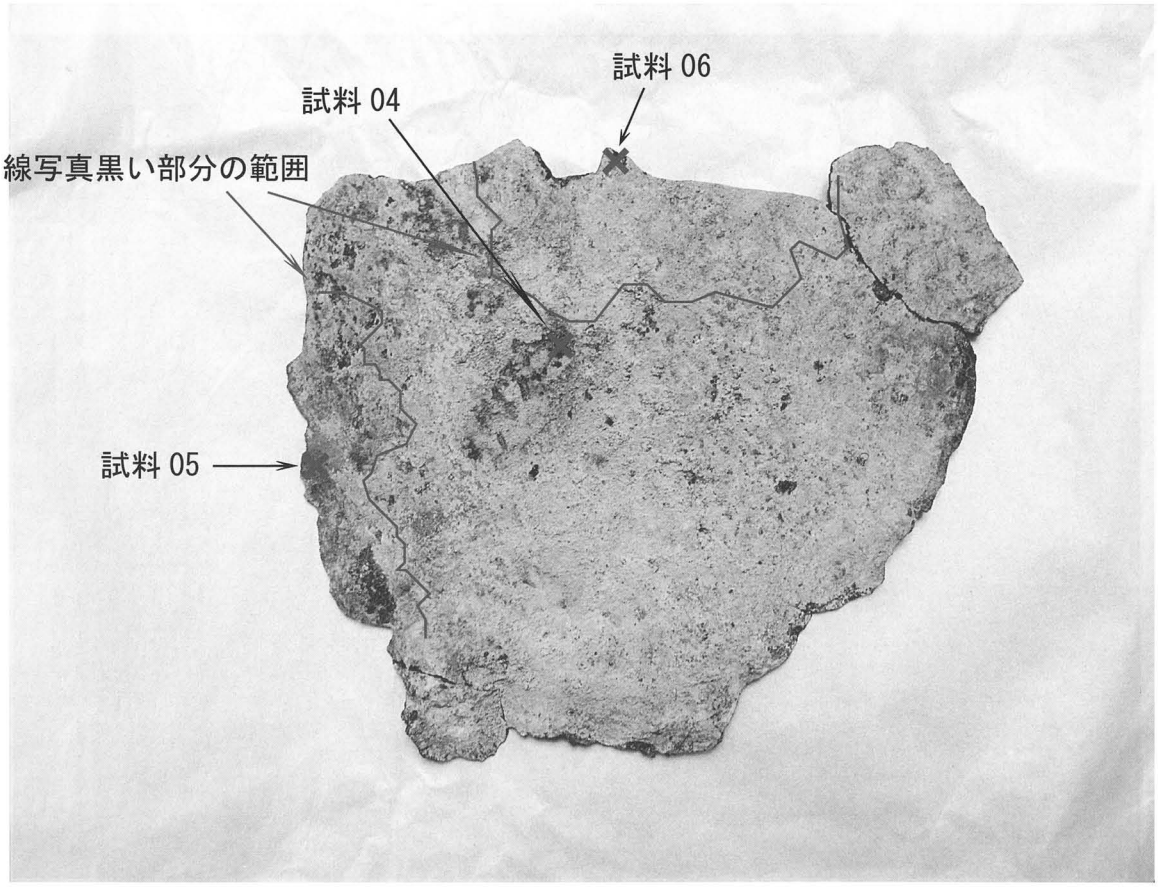


B）金属製品X線写真

図版15



A）金属製品蛍光X線試料測定点（内面）



B）金属製品蛍光X線試料測定点（外面）

報告書抄録

ふりがな	なかでらはいじあと　へいせい20ねんど
書名	中寺廃寺跡　平成20年度
副書名	
巻次	2009年3月
シリーズ名	まんのう町内遺跡発掘調査報告書
シリーズ番号	第6集
編著者名	中村文枝
編集機関	まんのう町教育委員会　中寺廃寺発掘調査室
所在地	〒766－0202　香川県仲多度郡まんのう町中通875番地　琴南公民館内 TEL（0877）85－2221
発行機関	まんのう町教育委員会
発行年月日	2009年3月25日

総頁数	目次等	本文	図版	表	挿図枚数	写真枚数
50頁	6頁	28頁	15頁	3枚	11枚	46枚

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中寺廃寺跡（なかでらはいじあと）	香川県（かがわけん） 仲多度郡（なかたどぐん） まんのう町（ちょう） 造田（そうだ） 3469－2	374067		34度 7分 19秒	133度 55分 3秒	4/9 ～ 12/10	249.21㎡	確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中寺廃寺跡	山林寺院	平安	礎石建物跡、掘立柱建物跡、柱穴、溝	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、西播磨産須恵器、金属製鋺	山林仏教草創期の寺院跡発掘調査

要約

中寺廃寺跡は、香川県仲多度郡まんのう町にある大川山（標高1042.9m）の西尾根、標高600～700mの辺りに広がる古代山林寺院跡である。昭和59年の発掘調査で塔跡を確認し、塔心礎石下から鎮壇具として納められた10世紀前半の壺などが出土した。平成16年から平成19年の発掘調査で、中寺廃寺跡はA～C地区の約1㎞の範囲にそれぞれ主要な建物や石組が造られたことがわかり、中心地区であるA地区では仏堂や塔が規則的に建造されたと考えられる。これらの遺構より8世紀後半から12世紀の遺物が出土し、平安時代を中心として盛行した寺跡ということがわかった。平成20年3月に国指定史跡となった。

平成20年度はB地区の調査を実施し、第2テラスより僧坊跡と考えられる掘立柱建物跡を検出した。

まんのう町内遺跡発掘調査報告書　第６集

中　寺　廃　寺　跡
平成 20 年度

平成21年３月25日　発行

編集・発行　まんのう町教育委員会　中寺廃寺発掘調査室
〒766－0202
香川県仲多度郡まんのう町中通875番地　琴南公民館内
電話　(0877)85－2221
印　　刷　株式会社　美巧社